

こぼれ話

田山花袋が書いた明治40年頃の府中市
～紀行文『日本一周』（中編大正4年（1915）刊行）「備後の山中を経て三次へ」より抜粋～

■ 福山から府中

「川がある。町がある。織物などの出来る町である。牛の仔が何疋となく野に遊んでいる。私の志す方に山が重なりあって、（中略）やがて私の車は、通りの細い田舎町へと入っていった。それが府中であつた。煙草が出来たり、指物師の多かつたりする府中の町だ。そこで私は一番大きな旅籠屋を選んで泊まった。」



大正時代の府中市街地
〔右上辺、専売局府中煙草製造所が見えます〕



昭和初期頃本通り
〔平地呉服店・備後銀行が見えます〕



現在の恋しき
〔田山花袋が宿泊した旅籠屋〕

■ 府中から上下

「路は葦田川の谷に沿って、くるくる廻って上っていった。（中略）信濃や飛騨のように深い山という感じは起こらないが、兎に角四面悉く山であつた。こけら葺きの獵師の家などがぼつねんと一軒立っているようなところもあった。木野山に入ろうとする処に、橋があつて、そこに一軒休み茶屋があつた。（中略）いつの間にか峠をも越えた。そこからは下り坂になる。細い谷川が一步ごとに段々開けてそして大きくなっていく。」

■ 上下

「いかにも海岸からはるばる山の中に入つて来たという感じのする町であつた。（中略）小学校があつたりした。警察署が町の曲り角のようなどころにあつて、そこから商家の軒が両側につづいた。笠だの糸立だのを売っている家もあれば乾物類を店に並べている家もあつた。一銀行と書いた大きな板が右に見えたと思うと、その隣の自転車の置いてある大きな店に車夫は梶棒を下ろした。」



明治末の上下尋常高等学校
〔上下陣屋跡に建っています〕



明治38年翁橋
〔架換渡橋式〕



大正時代の上下本町通り
〔中央遠くにキリスト教会が見えます〕

* 田山花袋は明治時代の文豪で、「蒲団」という作品が有名です。その「蒲団」のモデルとなったのが上下出身の文学者 岡田美知代といわれています。紀行文には、岡田家を訪ねて来た明治40年頃の様子が書かれています。

■ 上下の町並み

江戸時代、石州街道の宿場町だった上下に、幕府の代官所が置かれ、地域の政治的な中心地となりました。金融業や商業の町として発展し、多くの人や物が行き交い、さまざまな建物が建ち並んで、上下の町並みの基礎が形作られました。明治時代以降も商業・金融業などが活発に営まれ、現在の町並みにつながっています。

昭和12年（1937）頃に、本町通りが軍用道路として当時の道路幅から約2倍に広げられています。通りの両脇に建ち並ぶ建物は、屋根の軒先を切り縮めたり、通り側の壁の一部を切り取るなどして道路幅を確保しました。壁などを切った建物のなかには、状態の良い材料を再利用したり、かつてと同じように再生したものも残っています。

上下の町並みを構成する建物の半数以上は、江戸・明治・大正・昭和初期頃までに建てられたものか、あるいはそれを修理・改造したものです。上下には、昭和戦前までの伝統的な町並み景観がよく残っており、町並みから昭和戦前までの人々の暮らしの面影を感じることが出来ます。さらに、昭和初期の道路拡幅の痕跡もよく残っており、現在もそのまま見ることが出来ます。これは全国的に見ても珍しく、上下の町並みだけの特色と言えるかもしれません。



旧岡田家（上下歴史文化資料館）
白壁となまこ壁が美しい建物です。
文学者 岡田美知代の生家でもあります。



旧警察署
現在目にする屋根の上の檼は、半鐘とともに建築当時のままの姿を残しています。



重森本店
間口が一際大きい建物で、2階は黒しつ
くい壁と黒なまこ壁で仕上げられています。



旧角倉菓子店（泊まれる町家「天領上下」）
黒しつくい壁に白いなまこ壁、うだつ、
1階と2階とでデザインの異なる格子窓
などがおしゃれな建物です。



上下教会
旧角倉家の蔵で、屋根の上の八角形の
塔屋が目をはく建物です。戦後に改修し、
キリスト教会として利用されています。



旧田辺邸
2階の高さを低く抑えた造りが特徴で
す。2階には、通気や明り取り用の鉄格子が
はめ込まれた横長長方形の窓があります。



上下の町並み（本町通り）
中央右手には上下教会の塔屋があり、通りの奥には
翁山が見えます。



上下の町並み（日の出通り）
翁橋を渡ってつきあたりに翁座があります。通りの両側
に建ち並ぶ建物が当時の賑わいを伝えています。

世紀	時代
B.C.	旧石器
A.D.	縄文
1	弥生
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土桃山
18	江戸
19	
20	明治
21	大正
	昭和
	平成
	令和

指定文化財一覧

遺跡一覧

旧芦品郡役所庁舎

明治政府は廃藩置県を断行し、翌明治5年(1872)には郡も廃止し、「大区・小区制」を実施しました。例えば、府中市村(現在の府中市府中町)は、小田県第4大区第8小区府中市村と表示されました。しかし、長い歴史を持った郡を無視した諸政策には非難が多かったので、わずか6年で大区・小区制を廃止して郡を復活させました。

郡には郡役所が置かれ、官選の郡長が任命されました。さらに、明治23年(1890)には「郡制」が制定され、新たに議決機関として郡会が設置されることになり、郡は自治体としての性格を持つようになりました。

この頃から全国で郡の整理統合が進められ、日常的に行き来が頻繁な芦田郡と品治郡のような近くて狭い郡同士は合併することになりました。明治31年(1898)に芦品郡が誕生し、新郡役所(現府中市歴史民俗資料館)は、近世以降に発展・形成された当時郡内で最も繁華な石州街道の町場の東端に建てられ、明治36年(1903)3月28日に移庁式が盛大に行われました。

この建物は和洋風折衷のいわゆる擬洋風建物です。当時、役所・学校・駅などたくさんの方が集まる建物は擬洋風で建てられることが多く、芦品郡の人たちも洋風郡役所を見て、新しい時代の雰囲気を感じたことでしょう。

ところで、政府は地方行政制度、とりわけ「郡」の位置づけに悩んでいました。郡には課税権が与えられず、郡行政は府県知事や政府の監督を受け、自治体というには不完全なものでした。結局、大正10年(1921)に郡制廃止、5年後には郡役所の機能も廃止されるに至りました。半世紀に満たない中で、郡役所は歴史的役割を終えたのです。

その後、旧芦品郡役所庁舎は県の出先機関などの事務所として利用されましたが、昭和51年(1976)、道路拡幅に伴い旧芦品郡役所建物は取り壊されることになりました。ちょうど、旧制府中中学(現府中高等学校)校舎の擬洋風建物が取り壊されたばかりで、街のシンボルのような建物が相次いでなくなってしまうことを残念に思う市民たちは、建物の保存運動を行いました。その結果、多くの市民の賛同を得て募金も集まり、土生町の造成地に移築され、歴史民俗資料館として再利用することになりました。

現在、明治時代に建てられた擬洋風の郡役所建物は極めて数が少なくなり、いくつかは国の重要文化財にも指定されています。時代を語る貴重な歴史遺産です。



天井を支える柱の骨組み



玄関車寄せの装飾



軒下四隅の飾り

福塩線の開通

福塩線は、山陽本線福山駅と芸備線塩町駅(三次市)を結ぶ鉄道路線(78 km)です。

明治28年(1895)、府中市村の延藤吉兵衛ほか74名により「福山～府中間」が最初に計画されました。その後、明治43年(1910)に改めて鉄道計画が進められ、大正3年(1914)に、福山～府中間で両備軽便鉄道株式会社が営業を開始しました。昭和8年(1933)には国鉄に買収されて福塩南線となり、翌年に線路幅を762 mm(軽便)から1067 mm(省線)へ拡幅する工事に着手、昭和10年(1935)に現在の本庄廻り(福山市)のルートが完成し、府中駅も府中町永井町から現在地へ移転しました。

一方、府中～三次間については、大正4年(1915)に広島～三次間の芸備鉄道が開通したのを機に、鉄道を備後南部から三次へという運動が起きました。大正9年(1919)には上下町の有志が福山～三次間の鉄道敷設を沿線各町村へ呼びかけて、陳情運動を毎年繰り返しました。その努力の結果、昭和5年(1930)に上下～塩町間の福塩北線の着工が決まり、塩町～吉舎間が昭和6年(1931)に、吉舎～上下間が昭和10年(1935)に開通しました。

そして、昭和13年(1938)、府中～上下間の開通により、福塩線が全線開通しました。

鉄道の開通は、一気に人や物の流れを活性化させ、地域の近代化に大きく貢献しました。初めて鉄道が開通した時の記念式典は各市町村で盛大に行われ、いかに鉄道の開通が住民の念願であったかがうかがえます。

その後、昭和50年(1975)頃までは、福塩線は賑わいをみせていました。しかし、車社会になるにつれ利用者は徐々に減少し、昭和59年(1984)には第3次赤字ローカル線の廃止対象路線となりました。そのため、昭和61年(1986)には沿線の市町村が中心となって福塩線対策協議会を結成し、「ふるさとに乗って残そう福塩線」をスローガンに推進運動を展開しています。昭和62年(1987)、国鉄の民営化でJR西日本の営業となった今も、その運動は継続され、平成26年(2014)に福山～府中間開通100周年を迎えました。



開通当時の府中駅(大正時代)



現在地に移転した府中駅(昭和10年頃)



上下駅(昭和10年頃)



鉄道開通の余興見物(上下本町通)

世紀	時代
B.C.	旧石器
A.D.	縄文
1	弥生
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	江戸
18	
19	
20	明治
21	大正
	昭和
	平成
	令和

指定文化財一覧

遺跡一覧

工業都市府中の萌芽

現在の府中市はさまざまな業種が集積した内陸工業都市です。家具・繊維・金属・機械・プラスチック製品などの製造業を中心とした「ものづくりのまち」として発展してきました。福山城下郊外の手工業地域として、その萌芽はおおむね江戸時代末期から明治初頭に遡ることができます。

家具などの木工業

「府中家具」の名で全国に知られた家具工業については、江戸時代後期に大阪でタンス製造技術を修得した内田円三が、府中に帰郷した後に盛んになったといわれていますが、詳しいことはわかりません。ただ明治中期以降に、タンスや桐箱などの指物類が地場産業として盛んになったのは間違いありません。タンスなどの指物、琴、下駄の製作には桐材が利用され、部材を順にとっていく、一種のコンビナートを形成していました。



木材加工の様子（昭和初期頃）

繊維産業

府中地方は、府中市村に福山藩の木綿運上（営業や売上にかかる税）所が設置されたように、綿作と加工が盛んでした、宝永8年（1711）の『備後郡村誌』によれば、芦田郡では、畑地の綿作率が70%の町村をはじめ、14か村で綿作が行われ、農閑期副業として「女ハ綿ヲ織」と記されています。明治中期から織物業者が、周辺農村の女性に織機を貸し出して賃織を行い、農家の副業として盛んになりました。女性を工員として雇用する業者も現われ、小規模織物製造業者が増えて、府中の工業の中核となりました。また芦品地方では、明治中期から蚕業指導が進められて生産量も増え、製糸業者が多くなりました。大正4年（1915）には機械製糸が始められ、製糸工場がさかんに設立されました。



備後絹の糸干し（昭和16年・広谷町）

染料の原料である藍は、江戸時代末期から芦品地方で栽培されていましたが、加工業者が増え、明治22年（1889）には府中に備後藍商同業組合が結成されるまでになりました。第一次世界大戦による好景気で、府中地方の染料産業は著しく発展したものの、織物業では染料が不足しました。

染料の需要地であったことを背景に、大正5年（1916）、帝国染料製造株式会社（現日本化薬㈱）が硫化染料の製造会社として府中市で創業するなど、硫化染料の製造会社が多く設立され、化学産業の基礎が築かれました。その後、廃液処理などの関係で、臨海地帯の福山に移行しました。

タバコ（煙草）製造

タバコ（煙草）は、江戸時代中期頃に自家用栽培が備後南部で広がり、文化年間（1804～18）には製造業者も現われるようになりました。文政年間（1818～30）に刻みタバコの分業制の新製法を始め、安政年間（1854～60）になると、刻み機械を使う製造業者も増えてきました。この頃、葉タバコの栽培が盛んで「備後煙草」と呼ばれていましたが、葉タバコは府中に集められ、刻みタバコに加工され、全国に売り出されるようになりました。明治



専売局府中製造所（明治末・元町）

前期には府中町・出口町で多くの製造所が設立されており、刻みタバコの生産は県内一となっていました。明治37年（1904）時点では、府中町を中心に21の製造業者があがっています。明治38年（1905）には煙草専売制のもと、府中に「煙草製造所」（のちにJT府中工場）が設置されました。

その後、嫌煙運動などの影響を受けて、平成16年（2004）に工場は閉鎖し、現在、跡地が「府中学園」になっています。

醸造業（酒造・味噌）

物資の集散地であった府中では、醤油や味噌、酒造りなどの醸造業も盛んでした。

府中味噌の起源はおよそ400年前といわれていますが、当時は家内工業的なものでした。明治時代に入り、味噌専門の製造工場が出来たようです。そして、第二次世界大戦後の昭和30年（1955）には12工場に増加し、広島県内の生産量の約4分の1を占めていました。

酒造業も盛んで、明治10年（1877）創業の桑田酒造の「天晴」ほか、橋本酒造の「洗心」、上安原酒造の「幾千代」など、酒造会社が8社ありましたが、現在はすべて廃業しています。



味噌出荷作業（昭和初期頃）

金属工業

明治31年（1898）赤松鉄工所が創業、その後大正・昭和にかけて、大小鉄工関係工場が次々に生まれました。第二次世界大戦を経て戦後、急激に発展し、現在の金属工業の基盤を確立しました。

備後国府跡の発掘調査では、国府附属工房の系譜を受け継いだ、鋳物に関係した遺構・遺物が多く確認されます。また中世には、府中に国分寺助国という刀鍛冶の一党がいたという説があります。近代の金属工業の素地だったと考えられるかもしれません。

このような産業が、現在の府中市の主要産業につながっていますが、その発展の背景には、備後地方の交易上の主要結節点という地理上の利点が関係しているといえるでしょう。

現在、府中市では、このようなまちの歴史・特性を踏まえて「ものづくり産業」を活かしたまちづくりに総合的に取り組んでいます。

こぼれ話

剣先水車

出口川と芦田川が合流する所の中洲「剣先」は、水車小屋が造られ、水車を利用した加工産業が盛んで、府中の一大工業地であったといえます。具体的には、酒米の精米、絞油、刻み煙草の製造などが行われていました。水車がいつ造られたのかははっきりしませんが、一説には寛永16年（1639）頃の芦田川改修の時ではないかと言われています。

大正時代には、水車の規模が大きくなり、その大水車が府中の名物ともなっていたようです。

また、昭和10年（1935）頃までは末広橋の下辺りに貸しボートがあって、夏には涼を求める人で賑わっていました。

昭和20年（1945）の枕崎台風で流れた後も、一部修復して数年稼働しましたが、電力に取って替われ、昭和32年（1957）の芦田川改修で中洲そのものが姿を消しました。



芦田川から剣先周辺を望む（昭和初期頃）

世紀	時代
B.C.	旧石器
	縄文
A.D.	弥生
1	
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土桃山
18	江戸
19	
20	明治
21	大正
	昭和
	平成
	令和

旧石器時代

約3万年前 — この頃には日本列島に人々が暮らす
1万数千年前 — この頃から気候が暖かくなり海面が上昇し、やがて現在のような日本列島になる
岩陰・洞窟遺跡が広がる（帝釈峡遺跡群）

縄文時代

約1万2千年前 — 最古の土器が作られる
府中市でも縄文時代から人々が暮らす
2千数百年前 — 朝鮮半島から稲作が伝わり、狩猟採集生活から農耕生活へ移行する

弥生時代

各地にクニが生まれる
57年 — 倭の奴国王が後漢へ使者を送る
239年 — 邪馬台国の女王卑弥呼が魏へ使者を送る
弥生時代の集落・墓地在府中市各所に営まれる

古墳時代

3世紀後半頃 — 前方後円墳がつくられはじめる
4世紀中頃 — 大和の勢力が強大となる
478年 — 倭王武が宋に使者を送る
538(552)年 — 百濟から仏教が伝わる
古墳や集落が府中市各所に営まれる
代表的な古墳に山の神古墳群・南山古墳など

飛鳥時代

600年 — 第1回の遣隋使が送られる
645年 — 大化の改新が始まる
672年 — 壬申の乱が起こる
記録に備後国が現れ、この頃国府が置かれる
伝吉田寺が建立される
701年 — 大宝律令が定められる
葦田郡から甲奴郡が分立し、葦田郡に葦田郷・広谿郷、甲奴郡に矢野郷などが置かれる

奈良時代

710年 — 平城京に遷都する
712年 — 「古事記」がまとめられる
記録に常城が現れる
前原遺跡が営まれる
741年 — 諸国に国分寺建立の詔が出される
8世紀後半 — 「万葉集」ができる

平安時代

794年 — 平安京に遷都する
青目寺が創建される
11世紀初め — 「枕草子」「源氏物語」ができる
↓
1185年 — 平家が滅びる

鎌倉時代

1185年 — 源頼朝が守護・地頭をおく
1192年 — 源頼朝が征夷大將軍となる
1221年 — 承久の乱が起こる
1274・1281年 — 文永・弘安の役が起こる
↓
1333年 — 鎌倉幕府が滅びる

室町時代

有福庄・矢野庄などの荘園や国衙領が営まれる
1336年 — 足利尊氏が室町幕府を開く
府中周辺でも南北朝の争いが起こる
1362年 — 記録に「備後国符中」が現れる
1392年 — 南北朝が統一される
1397年 — 足利義満が金閣を建てる
1437年 — 「備後国府城」の戦いが起こる
1467年 — 応仁・文明の乱が始まる（～1477年）
1543年 — 鉄砲が伝来する
1549年 — キリスト教が伝わる
1573年 — 室町幕府が滅びる

安土桃山時代

1576年 — 織田信長が安土城を築く
毛利氏が中国地方を支配する
1590年 — 豊臣秀吉が全国を統一する
1592年 — 文禄・慶長の役が始まる（～1598年）
1600年 — 関ヶ原の戦いが起こる
福島氏が広島藩主となり安芸・備後を治める

江戸時代

1603年 — 徳川家康が江戸幕府を開く
水野氏が福山藩主となる
1639年 — 鎖国が完成する
1700年 — 上下に代官所が置かれる
備後は福山藩・広島藩・中津藩・幕府領にわかれる
1853年 — ペリーが浦賀に来航し、翌年開国する
1867年 — 大政奉還 江戸幕府が滅びる

明治・大正時代

1872年 — 新橋横浜間に鉄道が開通する
1876年 — 現在の広島県域が確定する
1889年 — 大日本帝国憲法が発布される
1894年 — 日清戦争が始まる（～1895年）
1903年 — 府中町に芦品郡役所が建てられる
1904年 — 日露戦争が始まる（～1905年）
1914年 — 第一次世界大戦が始まる（～1918年）
1925年 — 普通選挙制度・治安維持法が成立する

昭和・平成・令和時代

1931年 — 満州事変が起こる
1938年 — 福塩線が全通する
1939年 — 第二次世界大戦が始まる（～1945年）
1941年 — 太平洋戦争が始まる
1945年 — 広島・長崎に原子爆弾が投下され、無条件降伏をする
1947年 — 日本国憲法が施行される
1951年 — サンフランシスコ講和条約が結ばれる
1954年 — 合併により府中市・新上下町が誕生する
1964年 — 東京オリンピックが開催される
1972年 — 中国との国交が回復する
2004年 — 新府中市が誕生する
2021年 — 東京オリンピックが開催される

府中市の指定文化財

府中市の指定・登録文化財一覧（令和5年3月31日現在）

国指定文化財 3件

番号	種別	名 称	所在地	所有者	指定年月日
①	重文	木造神像11躯 木造隨身像4躯	栗柄町2980	南宮神社	平成29年9月15日
②	史跡	備後国府跡	府中市元町字五反田207番1ほか	府中市・個人 (管理団体府中市)	平成28年10月3日
③	天然	久井・矢野の岩海	上下町矢野1722-61ほか	個人ほか (管理団体府中市)	昭和39年6月27日

※その他、地域を定めず指定されている天然記念物のうち、特別天然記念物オオサンショウウオの生息が府中市で確認されている。
※重文…重要文化財　天然…天然記念物

国登録文化財 13件

番号	種別	名 称	所在地	所有者	指定年月日
④	有文	延藤家住宅洋館	出口町37-1	個人	平成12年10月18日
⑤	有文	恋しき主屋	府中町564-1	府中市	平成16年11月8日
		恋しき離れ(桔梗の間)	府中町177		
		恋しき離れ(菊の間)	府中町178,179-1		
		恋しき離れ(桐・さつきの間)	府中町178,179-2		
		恋しき離れ(竹・萩の間)	府中町179-5		
⑥	有文	上下町商工会館 (旧上下警察署庁舎)	上下町上下883-1	法人	平成23年7月25日
⑦	有文	桑田家住宅 主屋 桑田家住宅 離れ 桑田家住宅 石垣及び堀	本山町1517-1	個人	平成29年10月27日
⑧	有文	旧片野製パン所	上下町上下1090-3	個人	平成30年11月2日
⑨	有文	翁座	上下町上下岩崎2077	府中市	令和2年8月17日

※有文…登録有形文化財

広島県指定文化財 26件

番号	種別	名 称	所在地	所有者	指定年月日
⑩	重文	金銅仏具（22点） 五種鈴（独鈴鈴・三鈴鈴・五鈴鈴・宝塔鈴・宝珠鈴）5口、 輪宝1口、輪宝台1口、羯磨4口、 羯磨台4口、六盞6口、火舎1口	元町344	栄明寺	昭和28年8月11日
⑪	重文	版本大般若経（600巻） （付経櫃3櫃）	栗柄町2987	神宮寺	昭和29年11月11日
⑫	重文	青目寺塔婆 （1基 五層石塔婆）	本山町1200	青目寺	昭和30年3月30日
⑬	重文	木造日光菩薩立像（1軀）	本山町1201	青目寺	昭和30年3月30日
⑭	重文	木造月光菩薩立像（1軀）	本山町1201	青目寺	昭和30年3月30日
⑮	重文	日吉神社宝塔 （1基「正和四年五月八日」銘）	本山町85	日吉神社	昭和32年2月5日
⑯	重文	木造聖観音立像（1軀）	本山町1201	青目寺	昭和40年4月30日
⑰	重文	木造天部立像 （2軀 伝持国天・伝多聞天）	本山町1201	青目寺	昭和40年4月30日
⑱	重文	絹本着色釈迦十六善神像（1幅）	栗柄町2987	神宮寺	平成6年10月31日
⑲	重文	五輪塔形曳置曼荼羅版木（1面）	本山町1201	青目寺	平成7年1月23日
⑳	重文	木造阿弥如来坐像（1軀）	元町344	栄明寺	平成7年9月21日
㉑	重文	石造宝篋印塔 （1基 「正平十」銘） ※正平十年=1355年	上下町矢野766	安福寺	昭和38年4月27日
㉒	重文	木造薬師如来坐像	上下町上下445-3	吉井寺	昭和54年3月26日
㉓	有民	開見八幡神社の若宮信仰資料 62点 若宮神像48軀、合祀若宮木札11枚、石造若宮霊量1基、祖霊社棟札2枚、附祖霊社1棟	上下町階見2695	八幡神社	平成7年1月23日
㉔	無民	備後府中荒神神楽		備後府中荒神神楽保存会	昭和52年9月14日
㉕	無民	弓神楽		井永弓神楽保存会	昭和46年12月23日 昭和53年1月31日 （国 選 択）
㉖	無民	矢野の神儀		矢野神儀保存会	昭和51年6月29日
㉗	史跡	青目寺跡	本山町222-1の一部,273	本山生産森林組合	昭和15年2月23日
㉘	史跡	伝吉田寺跡	元町619-1・4～10	金龍寺ほか	昭和18年3月26日
㉙	史跡	天領上下代官所跡	上下町上下466-1・2・3	府中市ほか	昭和16年3月10日
㉚	史跡	有福城跡	上下町有福11-1ほか	個人	昭和16年3月10日
㉛	史跡	南山古墳	上下町水永122-1ほか	個人、府中市	平成元年3月20日
㉜	天然	行徳八幡神社の大木群 17株 イチヨウ1株、ツガ2株、カヤ3株、スギ1株、アラカン3株、エノキ1株、カゴノキ1株、クスノキ2株、フジキ1株、ノダフジ1株、ムクロジ1株	行徳町773	行徳八幡神社	平成3年12月12日
㉝	天然	井永のシラカシ	上下町井永691	八幡神社	昭和60年12月2日
㉞	天然	矢野のケンボナシ	上下町矢野1045	福泉寺	昭和60年12月2日
㉟	天然	国留のヤブソバキ	上下町国留515-3	個人	平成7年9月21日

※広島県指定文化財の正式名称：重文…広島県重要文化財　有民…広島県有形民俗文化財　無民…広島県無形民俗文化財　史跡…広島県史跡　天然…広島県天然記念物

府中市指定文化財 54件

番号	種別	名 称	所在地	所有者	指定年月日
㊦	重文	大久保生式遺跡出土品	元町1-5	府中市教育委員会	昭和39年11月5日
㊧	重文	宇瓦 （備後国府跡〔推定〕出土）	福山市西町2-4-1	広島県立歴史博物館	昭和39年11月5日
㊨	重文	木造僧形坐像 （伝青目上人像）	本山町1201	青目寺	昭和39年11月5日
㊩	重文	石造五輪塔 （伝うしの塔）	本山町109	青目寺	昭和39年11月5日
㊪	重文	日吉神社府川石鳥居	府川町64	日吉神社	昭和39年11月5日
㊫	重文	木造阿弥陀如来坐像	栗柄町1950	西龍寺	昭和42年2月10日
㊬	重文	伝吉田寺跡出土品	元町622	金龍寺	昭和42年2月10日
㊭	重文	洞仙焼御神酒徳利	出口町745	甘南備神社	昭和44年10月14日
㊮	重文	青目寺石造水鉢	本山町1201	青目寺	昭和49年9月9日
㊯	重文	坊迫宝塔	元町715-2	元町財産区	昭和49年9月9日
㊰	重文	常福寺石造水鉢	鵜飼町201	常福寺	昭和49年9月9日
㊱	重文	旧芦品郡役所庁舎	土生町882-2	府中市	昭和52年12月6日
㊲	重文	銅鐘	元町344	栄明寺	昭和54年12月25日
㊳	重文	木造薬師如来坐像	元町344	栄明寺	昭和54年12月25日
㊴	重文	紺紙金泥大般若波羅蜜多經（巻第五百七十）	元町344	栄明寺	昭和54年12月25日
㊵	重文	南宮神社本殿	栗柄町2980	南宮神社	昭和58年12月6日
㊶	重文	府中八幡神社社主天満宮本殿	出口町162	府中八幡神社	平成12年2月14日
㊷	重文	南宮神社鐘撞堂・隨身門	栗柄町2980	南宮神社	平成19年12月25日
㊸	重文	日吉神社本殿	本山町761	日吉神社	平成19年12月25日
㊹	重文	金毘羅神社石燈籠	府中町562	金毘羅神社	平成22年6月25日
㊺	重文	清瀧神社本殿	鵜飼町203	清瀧神社	平成30年2月19日
㊻	重文	善昌寺坐禅堂	上下町上下341	善昌寺	昭和40年9月10日
㊼	重文	善昌寺鸞張り廊下	上下町上下341	善昌寺	昭和40年9月10日
㊽	重文	安福寺の宝塔	上下町矢野766	安福寺	昭和56年2月17日
㊾	重文	長福寺の無縫塔	上下町小堀1235-2	長福寺	昭和56年2月17日
㊿	重文	国留八幡神社棟札	上下町国留200	八幡神社	昭和56年2月17日
㉀	重文	井永八幡神社大般若波羅蜜多經（巻第二百八十七）	上下町井永691	八幡神社	平成15年2月18日
㉁	重文	水永大蔵神社大般若波羅蜜多經（巻第三百九）	上下町水永481	大蔵神社	平成15年2月18日
㉂	重文	元禄検地水帳 14冊		府中市 個人	平成15年2月18日
㉃	有民	大蔵神社大数珠	上下町水永481	大蔵神社	平成15年2月18日
㉄	無民	上下神楽		上下神楽保存会	昭和49年12月13日
㉅	無民	井永八幡神社祭礼行事		井永神儀保存会	昭和51年12月17日
㉆	無民	井永神楽		井永神楽保存会	昭和54年4月20日
㉇	史跡	五弓雪窓の墓	本山町1672-2	個人	昭和49年9月9日
㉈	史跡	大戸直純の墓	出口町45	個人	昭和49年9月9日
㉉	史跡	幡立山城跡	本山町25-1,185、 出口町84-2	本山生産森林組合、 元町生産森林組合	昭和49年9月9日
㉊	史跡	孝子墓	上下町小堀2032-3	小堀二森町内会	昭和54年12月11日
㉋	史跡	義農仁兵衛と庄三郎の墓塔	上下町矢野1644-3	安福寺	昭和56年2月17日
㉌	史跡	翁山城跡（護国山城跡）	上下町上下80-1	府中市	平成8年9月20日
㉍	天然	諸毛八幡神社の大スギ	諸毛町2295	諸毛八幡神社	昭和42年2月10日
㉎	天然	諸毛良神社のアカガシ	諸毛町2292	諸毛良神社	昭和54年12月25日
㉏	天然	矢野八幡神社のスギ	上下町矢野1236	八幡神社	昭和58年7月12日
㉐	天然	階見八幡神社のケヤキ	上下町階見2695	八幡神社	昭和58年7月12日
㉑	天然	深江のシダレザクラ	上下町深江669-3	個人	昭和62年7月24日
㉒	天然	井永のエノキ	上下町井永157-1	個人	昭和62年7月24日
㉓	天然	井永のヒガンザクラ	上下町井永186	府中市	昭和62年7月24日
㉔	天然	善昌寺のビャクシン	上下町上下341	善昌寺	昭和62年7月24日
㉕	天然	清芳園のビャクシン	上下町上下676-3	府中市	昭和62年7月24日
㉖	天然	河井のナラガシワ	上下町小堀1285-2	個人	昭和62年7月24日
㉗	天然	河井の石灰岩地植生	上下町小堀1011-2ほか	個人	平成元年12月20日
㉘	天然	養源寺のタラヨウ	上下町階見2795	養源寺	平成2年6月13日
㉙	天然	宇根のトチノキ	上下町矢野955-1	個人	平成4年9月22日
㉚	天然	合祀神社のシンジュ	上下町上下668-1	合祀神社	平成8年9月20日
㉛	天然	矢野（宇根）の火道角礫岩の露頭	上下町矢野986-1	個人	平成8年9月20日

※府中市指定文化財の正式名称：重文…府中市指定重要有形文化財　有民…府中市指定有形民俗文化財　無民…府中市指定無形民俗文化財　史跡…府中市指定史跡　天然…府中市指定天然記念物

世紀	時代
B.C.	旧石器
	縄文
A.D.	弥生
1	
2	古墳
3	
4	
5	
6	飛鳥
7	
8	奈良
9	平安
10	
11	
12	鎌倉
13	
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	江戸
18	
19	
20	明治
21	大正
	昭和
	平成
	令和

府中市の指定文化財

国指定文化財

南宮神社

国府に関わりの深い神社で12～13世紀頃の神像も多く残されている。古代より永く崇敬され、江戸時代には福山藩の支援を受けて本殿が再建された。神宮寺と合わせて、多くの文化財を今に伝えている。



1 木造神像11躯 木造隨身立像4軀

平安時代制作

鎌倉時代制作



男神その1

男神その2

男神その3

男神その4

男神その5



女神その1

女神その2

女神その3

女神その4

女神その5



童子形

隨身その1

隨身その2

隨身その3

隨身その4

備後国府の南方に位置する南宮神社本殿に伝えられていた11軀の神像と、隨身門に安置されていた4軀(2対)の隨身像で、平安時代末(12世紀後半)～鎌倉時代前半(13世紀前半)頃にかけての製作とみられる。

神像は、高さ42.2～63.3cm。男神その1～4と女神その1～3は、同じ作者が製作したものとみられるが、年齢や社会的地位などを作りわけているのが注目される。隨身立像は、高さ100.3～138.5cm。平安時代のもものと、鎌倉時代に製作されたと思われるものの2対がある。

これらの神像群は、多様な特徴をそなえているのに加えて、出来栄も水準以上であり、備後国府の関与があったと考えられる。この地方の神像彫刻を考えるうえで重要な事例として評価されている。

2 備後国府跡

史跡



伝吉田寺地区 建物跡など

ツジ地区 建物跡など

備後国府中心部

金龍寺東地区 建物基壇

昭和42年(1967)以降の発掘調査によって、元町を中心に、ほぼ方一町の区画内に囲まれた大型掘立柱建物跡や礎石建物群、苑池、古代寺院など国府の多様な機能を示す遺構群とともに、国産施釉陶器や貿易陶磁器、官衙関連遺物が多数出土し、国庁こそ未確認ながら、奈良時代～平安時代の地方政治の拠点「国府」が府中市街地に所在したことが明らかになった。

平成28年(2016)に、8世紀から12世紀に及ぶ遺構の概要が明らかになった金龍寺東地区及びツジ地区が史跡指定された。令和元年(2019)には、国府を構成する施設の一つである伝吉田寺に関わる8世紀代の遺構が確認され、伝吉田寺地区が追加指定された。

3 久井・矢野の岩海

天然記念物



崩壊した花崗岩が急斜面を転落し、谷に累積して形成されたもの。長径2～6mの風化して角がとれて丸くなった礫が重なり合い、厚さ7m以上で谷の方向に約100m続いている。巨礫が支え合って、人が入れるほどの隙間ができており「コウモリ岩」と呼ばれていた。

底部基盤岩の表面を地下水が流れ、洞口からは夏も冷気が噴き出している。

府中市の指定文化財

国登録文化財

4 延藤家住宅洋館・和館(洞仙荘)

有形文化財



昭和6年(1931)、南面する傾斜地に別荘施設として建築された。木造2階建。和館部とその玄関脇に建つ応接用の施設である洋館部からなる。

和館部は2階建ての主体部と渡り廊下で接続された離れからなり、洋館部は1階を擬石塗り、2階をハーフティンバーとし、南面にベイウィンドウを設け、西面には1階に出窓を造り、その上を2階バルコニーとしている。

5 恋しき主屋・離れ4棟

有形文化財



恋しきは、江戸時代の石州街道の宿場町にあり、明治5年(1872)に開業した老舗旅館であった。主屋・庭園・離れからなり、明治・大正・昭和を通じ、当時の好みを取り入れた増改築がなされ、幾つもの時代が重層しているところにこの建物固有の価値がある。

主屋は一部3階建て、変化に富んだ外観を構成し、町並み景観上際だっている。そして、庭園を囲むように茶室を設けた4棟の離れが点在しており、風雅な外観を見せている。離れは全て平屋建てで、桔梗の間、菊の間は野趣に富んだ数寄屋風、桐・さつきの間は堂々とした構成をもち、竹・萩の間は、数寄屋風の軽快で風雅なつくりである。

主屋：明治初年、明治末・大正・昭和初期頃増築
離れ(桔梗の間)：大正初期
離れ(菊の間)：大正初期
離れ(桐・さつきの間)：大正期
離れ(竹・萩の間)：昭和22～23年(1947～1948)頃

6 上下町商工会館(旧上下警察署庁舎)

有形文化財



昭和5年(1930)、上下警察署庁舎として建築された。桁行13m、梁間7.4mの木造2階建、寄棟造鉄板葺の洋風建物。

正面中央に張り出した玄関ポーチの上部を塔屋状に立ち上げ、外壁に2連または3連の縦長窓を左右対称に配置し、鉄筋コンクリート造りのような外観を表現している。

8 旧片野製パン所

有形文化財



上下町本通り角地に東面して建つ木造平屋一部2階建の洋風建物で、間口8間、奥行2間の細長い造りである。1階は全面店舗で2階は床付の和室となっている。東南二面の外壁はモルタル大壁で一階にアーチ窓、2階に縦長窓を並べ、柱形や軒蛇腹、開口周縁の線形やレリーフで装飾豊かに仕上げている。

7 桑田家住宅 主屋・離れ・石垣及び堀

有形文化財



本山町東谷に所在する、地域の人に「頼宗邸」と呼ばれている建造物。崖地に高い石垣を築いて建てた主屋は江戸末期の建築で大型農家の特徴を備え、西側に建つ離れは昭和16年(1941)建築で細部に意匠を凝らしている。石垣は打ち込み接ぎの精緻なもので、6m超と高く、建物とともに地域の景観を特徴付けている。

9 翁座

有形文化財



江戸時代に石州街道の宿場町として栄えた上下町上下に所在する。昭和2年(1927)に開館した木造2階建ての劇場建築。吹抜の2階にコ字型に巡る浅敷席、勾配のある畳席、擬宝珠高欄、折り上げ格天井など、近世の芝居小屋の空間をよく残している。戦前の木造劇場建築は中国地方で唯一の現存例。

世紀	時代
B.C.	旧石器
A.D.	縄文
1	弥生
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	鎌倉
13	
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土・桃山
18	江戸
19	明治
20	大正・昭和
21	平成・令和

指定文化財一覧

遺跡一覧

府中市の指定文化財

広島県指定文化財

12 青目寺塔婆（五層石塔婆）重要文化財



青目寺本堂右の収蔵庫北に所在。現高2.08m花崗岩製。

基礎の正面に「正応五年（1292）二月二十八日、願主源□」の銘文が陰刻しており、初重軸部（塔身）には、四面に胎蔵界四仏の種子を薬研彫りで刻んでいる。各笠とも軒は厚く、真反りに造られており、鎌倉期の特徴をよく現している。

青目寺・日吉神社の文化財

青目寺は、もともとは市街地北方の亀ヶ岳周辺に存在した寺院で、寺伝によると、延喜年間(901～923)には、山頂に4坊、周辺の山腹に11寺を従えるほど隆盛していたが、たび重なる火災などによって次第に衰退し、寛保3年(1743)に現在地に焼失をまねがれた仏像を移したと伝わっている。

一方、日吉神社は、青目寺の守護神として近江から勧請されたといわれている。

市内の指定を受けた有形文化財のうち、約3割が青目寺と日吉神社に関係したものである。

18 絹本着色釈迦十六善神像重要文化財



釈迦十六善神像は「大般若経」を転読する大般若会の時の本尊として懸用されたものである。

縦210.0cm、横81.5cmを測り、画像の特徴から、宋元風の影響が強く、南北朝時代末期から室町時代初期の作と考えられる。セットになる大般若経600巻が現存しており、全国的にも稀少な例である。

19 金銅仏具（22点）重要文化財



五種鈴（独鈷鈴・三鈷鈴・五鈷鈴・宝塔鈴・宝珠鈴）は和様のもので、鈴の頂部に八葉蓮弁の座を作り、胴に二段の帯をめぐらしてある。他に輪宝1、輪宝台1、羯磨4、羯磨台4、火舎1、六器6がある。

室町時代製作の古い密教仏具が、栄明寺に一括具備して保存されており、大変貴重である。

13 木造日光菩薩立像重要文化財



一木造りで像高88cm、平安時代初期の作である。本像は木地に布を貼り、その上に漆を塗った乾漆像であるため、衣文の彫りがやや浅く見える。今は剥落しているが、金箔を施してあったと伝えられる。

16 木造聖観音立像重要文化財



一木造りで背割りりが施されている。像高117cm、平安時代初期の作であるが、両腕は後補されている。本像は青目寺が山上に崇えていた頃の、いずれかの御堂の本尊であったと考えられる。



19 五輪塔形曳覆曼荼羅版木重要文化財



曳覆曼荼羅とは棺に納められた遺体を覆う白布に曼荼羅を描いたもので、それを印刷するための版木が青目寺に伝わっている。

寺伝によると「正元元年（1259）四月二十八日」の年号が刻まれていたようである。いまは判読できないが、図像などから鎌倉時代製作と考えられる。

室町時代以前の版木は全国で5例しか確認されておらず、全国でも最古級のものと推測される。

11 版本大般若経（600巻）（付経櫃3櫃）重要文化財



興福寺において刊行された、春日版とよばれる大般若経600巻のひとつである。この版本大般若経は、応永25～29年(1418～22)にかけて、僧中高の発願により、南宮神社へ奉納されたことが櫃の蓋に記されている。600巻全部が保存され、原則どおり200巻ずつ3櫃に納められ、櫃が経巻と同時代のものであるのは、極めて少なく貴重なものである。

15 日吉神社宝塔（「正和四年五月八日」銘）重要文化財



日吉神社本殿の右後方の基壇上に所在。高さ約1.5mの花崗岩製。基礎の一面に「正和四年（1315）五月八日、勸進沙門、玄真」の刻名があるが、現在はほとんど判読できない。塔身の首部上面に、深さ 12.5 cm のくり込みがあり、この中に納経してあったものと思われる。基礎の下には備前焼の甕が埋められていた。

17 木造天部立像重要文化財



一木造りで像高117cm（伝持国天）、118cm（伝多聞天）とともに平安時代初期の作である。持国天、増長天、広目天、多聞天の四天王の内2軀で、持国天、多聞天との伝承はあるが、両腕が後補されているため確定はできない。

20 木造阿弥陀如来坐像重要文化財



像高71.7cm。割矧造りで、頭・体とも前後に2材を合わせ、漆塗した上に金泥を塗っている。螺髪は切付螺髪である。像の各部が彫刻的均合を保ち、勇健な表現となっている。

全国的に見ても鎌倉時代前半期を代表する傑作である。栄明寺所蔵。

府中市の指定文化財

21 石造宝篋印塔（「正平十」銘）重要文化財



宝篋印塔は、高さ1.3mの花崗岩製。塔身には、金剛界四仏の種子が、基礎の裏面には「正平十年(1355)」の南朝年号が刻まれている。県内でも数少ない南北朝期の石造物である。

宝塔は、高さ2.35mの花崗岩製。刻銘なく造立年代は不明。

24 備後府中荒神神楽無形民俗文化財



この荒神神楽は、府中市近在の社家に伝承されてきたものを、明治初年に若連中が神楽人として伝授し、現在に至ったもので、7年目毎の年番神楽として一応の体裁を備えている。中心をなす演目は、荒神社の式年神楽において行われるもので、多くは一種の秘伝として取り扱われている。

その曲目は、手草舞、剣舞、折敷舞、悪魔祓、造花、龍神舞、布乃舞、焼石神事の9曲である。

27 青目寺跡史跡



亀ヶ岳山頂周辺にあった山上伽藍跡。寺伝によると、延喜年間(901～923)には、山頂に4坊、周辺山腹に11寺を従えるほど隆盛していたが、度重なる火災などによって次第に衰退し、現在地（青目寺）に焼失をまねがれた仏像を移したと伝わっている。

平成7年（1995）以降、継続的に調査を進め、中御堂、西御堂、北御堂、東御堂、南御堂などの建物遺構を確認している。

30 有福城跡史跡



本丸は約50m×20mの規模である。四方へ延びる丘陵尾根には大小の郭、斜面には堅堀などを構える。建武3年（1336）、竹内兼幸は南朝方として有福城に立てこもったが、北朝方の山内氏・長谷部氏などの攻撃を受け敗れた。また、天正9年（1581）に有福元貞が毛利輝元から「有福要害」の普請と番衆の入城を命じられたことが確認される。

22 木造薬師如来坐像重要文化財



木彫寄造り、像高149cm、鎌倉時代後期（13世紀）作の半丈六仏である。彩色は江戸時代のもと思われる。

上下代官所の初代代官曲淵市郎右衛門が病氣平癒の靈験に浴し、北方約1kmの吉井谷から吉井寺に移祭したと伝えられている。

25 弓神楽無形民俗文化財



弓神楽は、弓祈禱、神弓祭、内神楽ともよばれ、かつては広島県東部の備後一円に行われていた。地域共同の荒神祭、私的な宅神祭に演奏される。神座の前に揺輪を据え、弓を結びつけ、銅拍子・笛の合奏で弦を打ち鳴らしながら、祭文をとねえ土公神を祭り、五穀豊饒と家内安全を祈る神楽である。

28 伝吉田寺跡史跡



市街地北縁、金龍寺（元町）の南面に位置する。飛鳥時代から平安時代の寺院跡である。昭和43年(1968)の発掘調査で乱石積の塔基壇と講堂基壇の一部が検出されている。遺跡現地にある金龍寺には塔の心礎といわれる石が伝存している。

31 南山古墳史跡



横穴式石室を内部主体とする前方後円墳。全長は22.5mで、後円部は直径約14.5m、高さ約4m、後円部の東南に長さ約8m、幅約10m、高さ約1.5mの前方部がとりついている。石室の平面が羽子板状をなし、奥に向かって右側に立柱状の石を設置しているのが特徴。出土遺物はほとんどないが、6世紀の終わりがの築造と推定される。

23 階見の若宮信仰資料有形民俗文化財



甲奴郡地方の若宮信仰は、亡くなった人の霊を氏神とともに祀る祖霊の信仰である。高さ18～30cmの神職姿の立像・座像の若宮神像48体（享保18年（1733）から文政9年（1826）頃の間に制作）、石造若宮霊壇1基、家ごとの若宮木札11枚、祖霊社再建棟札2枚が、それらをおさめる祖霊社社殿を含めて一括指定されている。

26 矢野の神儀無形民俗文化財



矢野一円の住人は洩れなくこの神儀に参加する。大太鼓・小太鼓・笛・鉦・ほら貝の音にのせて、唐うちわ・毛槍・羽熊などうちたて、屋形を担ぎ、須佐神社（祇園社、三次市甲奴町小童）に繰り出し、奉納する。行列の神儀練りと庭打ちは、勇壮にして華やかである。毎年7月第3日曜日に行われている。

29 天領上下代官所跡史跡



旧上下町役場跡に位置する。元禄11年(1698)の水野家断絶後の検地によって、旧福山藩領は15万石とされ、5万石分が幕府領へ編入され、上下に代官所が置かれた。享保2年（1717）、幕府領のうち2万石分が豊前中津藩領となり、上下代官所は石見大森代官所の出張陣屋と改められて、幕末まで存続した。

32 行藤八幡神社の大木群天然記念物



社殿の周辺に、ツガ、カヤ、アラカシ、シラカシ、ヤブツバキなどがかなりの大木となって成育しており、低木層に見られるシキミ、シロダモ、アオキ、ネズミモチなどとともに、一部に中間帯自然植生の名残を留めている。群落としては不完全であるが、大木がまとまって生育し、分布生態の上で興味深い樹木を含んでいることは、学術的に価値が高い。

世紀	時代
	旧石器
B.C.	縄文
A.D. 1	弥生
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	
18	江戸
19	
20	明治
	大正
	昭和
21	平成 令和

指定文化財一覧

遺跡一覧

府中市の指定文化財

33 井永のシラカシ

天然記念物



神木として崇められてきたブナ科の常緑高木。樹幹は空洞になっているが、表皮から新しい枝が出て樹勢は旺盛である。

34 矢野のケンボナシ

天然記念物



クロウメモドキ科の落葉高木。花柄部が肉質に肥大してナシのような味がするので、子どもたちが好んで噛んでいたという。

35 国留のヤブツバキ

天然記念物



国留の丘陵上にあるツバキ科の常緑中木。樹形、樹勢ともに見事で、毎春、枝一面に赤い花を咲かせる。

36 大久保弥生式遺跡出土品

重要有形文化財



芦田川南岸の茶臼山山麓（栗柄町）に位置する大久保遺跡の出土品。昭和53年（1978）の発掘調査で弥生時代から古墳時代初期の住居跡や包含層が検出された。出土品には、壺・鉢・高杯・甗形土器などや鉄鎌・玉類がある。

37 宇瓦（備後国府跡〔推定〕出土）

重要有形文化財



旧広谷小学校（鶏飼町）南の水田で発見された均整唐草文軒平瓦。

39 石造五輪塔（伝うしの塔）

重要有形文化財



青目寺西方の山中に所在。総高1.4m、花崗岩製で大型のものである。火輪（笠）の勾配がゆるく、軒は厚く真反りに造られ、水輪が太鼓状の形態をするなど、古式を示しており、鎌倉時代前期頃のものとは推定され、県内では最古の部類に入ると思われる。

41 木造阿弥陀如来坐像

重要有形文化財



栗柄町安江の観音堂に所在。像高86cm、ヒノキ材の寄木造り。豊満で温和な表情や堂々たる風格を漂わせる姿が定朝様を彷彿とさせる。平安時代後期の製作と推定される。

かつてこの地に所在した「安衛寺」の本尊だったと伝えられる。

42 伝吉田寺跡出土品

重要有形文化財



昭和17年（1942）の発掘調査で出土した、男性の顔をヘラ描きした丸瓦や藤原宮式の軒丸瓦など。

府中市の指定文化財

44 青目寺石造水鉢

重要有形文化財



青目寺境内所在。現高95cmの花崗岩製。

鉢は八角形で側面に蓮華文を刻み出し、竿の高さは60cmで下半分の角を削いである。正面は「□為□二世也」、左側は「天文二四（1555）乙卯八月日」と判読できる。

常福寺（46）同様、備後地方特有の形式をもつ水鉢である。

47 旧芦品郡役所庁舎

重要有形文化財

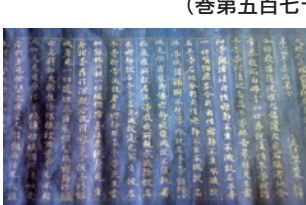


明治36年（1903）頃に竣工した旧芦品郡役所庁舎。府中町一番地に建っていた。昭和52年（1977）に、市民運動により保存移築された。現歴史民俗資料館。

登録文化財制度が出来る以前に市の指定文化財となっていた近代遺産。詳しくは27ページ。

50 紺紙金泥大般若波羅蜜多經（巻第五百七十）

重要有形文化財



大般若波羅蜜多經600巻のうち、第570巻の写経である。紙巾25cm、全長832cmの紺紙で卷子本に作られている。書は金泥（金粉とニカワを混合したもの）により、藤原期のやわらかみのある和様の筆写体で書かれており、見返しには、釈迦説法の場面が描いてある。

52 府中八幡神社末社天満宮本殿

重要有形文化財



府中八幡神社は八尾山城の守護神であったと伝えられるが荒廃したため、地元住民が現在地へ社殿を再興した。当時21年かけて募金を集め、元禄5年（1692）に建立した本殿が、天満宮に転用されて現存している。この地方によく見られる本殿形式で、最古級のものである。建立当時の部材がよく残っている。

45 坊迫宝塔

重要有形文化財



元町の丘陵上に所在。高さ1.34m、花崗岩製。勾欄造りで、塔身軸部には縁板状の造出しが施されている。笠石の勾配はややゆるく軒反りは少ない。相輪は折損した残部が立てられている。南北朝時代頃の製作と推測される。

48 銅鐘

重要有形文化財



高さ134cm、口径74cmの青銅製の梵鐘。

元禄4年（1691）、栄明寺第十九代翁阿上人の発願により、御調郡海裏邑（現在の世羅町宇津戸）の鋳物師丹下甚兵衛実次が造ったと銘文にある。現存する丹下氏作の梵鐘としては、甲山今高野山の寛文7年（1667）銘のものに次いで古いものと思われる。栄明寺の鐘楼にある。

51 南宮神社本殿

重要有形文化財



本殿は五間社の入母屋造りで、県内でも例が少ない。桁行三間、梁間一間の身舎の四周に庇を設けた三間四面庇の平面形式の発展型と考えられ、妻戸や連子窓を設ける形式は、新市町の吉備津神社本殿（国重要文化財）と共通する。両社とも入母屋造りに千鳥破風と唐破風を設けている点が注目される。建築様式から、17世紀中頃のものと考えられる。保存状態は非常に良く、一部が後補材となる以外はよく残っている。

53 南宮神社鐘撞堂・隨身門

重要有形文化財



鐘撞堂は、方一間の切妻造り、本瓦葺。本殿とはほぼ同時期、17世紀中頃の建立と考えられる。鐘撞堂は、神仏習合時代には多くの神社にあったが、明治の神仏分離令により破却されたため、神社境内にあるものは極めて少なく、歴史的価値が高い。方一間の四方吹抜ちの形式として、比較的古い建物であることも重要である。

隨身門は、瓦葺きで三間一戸の八脚門。貞享4年（1687）に建立されたという記述が残っており、建物の様式からみても、その頃の建立と考えられる。また、神像が2組残っており、以前は隨身門が2ヶ所あったと思われる。

世紀	時代
B.C.	旧石器
A.D. 1	縄文
2	弥生
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土桃山
18	江戸
19	
20	明治
21	大正
	昭和
	平成
	令和

指定文化財一覧

遺跡一覧

府中市の 指定文化財

54 日吉神社本殿

重要有形文化財



三間社の入母屋造りである。正面三間に内開きの部戸、側面前方に間に方引板戸を設け、四面に縁を廻らす。彩色はされていなかった可能性が高い。

寛永10年(1633)及び元禄16年(1703)に社殿再建の棟札があるが、様式的に元禄より少し新しい享保年間(18世紀前半)建立のものと考えられる。平成4年(1992)の解体移築では、全ての部材をそのまま使用し、当時の材がすべて残っている。

57 善昌寺座禅堂

重要有形文化財

58 善昌寺鶯張り廊下



座禅堂は一間四面の方形堂で、正中年間(1324～26)建立と伝えられている。背面頭貫木鼻や外回りの円柱に創建時と思われる部材が残っている。県内でも数少ない禅宗仏堂として貴重である。

鶯張り廊下は、独特の技法により本堂廊下を歩くとき音が出ようになっている。永禄4年(1561)、京都から高橋家次を招聘して本堂を再建したと伝わる。

55 金毘羅神社石燈籠

重要有形文化財



金毘羅神社境内にある19世紀の石造の燈籠。現高8.38m(約3丈)、笠石は一辺2.62mで約4畳半の広さがある。

文化7年(1810)、讃岐の金比羅宮を選擇するため三浦堪右衛門が発起したとされる。

天保5年(1834)に着工、天保12年(1841)に完成した。建立に関係する古文書や石碑も残っており、当時の府中の総力を挙げて完成した大事業であったことを現在に伝えている。

56 清瀧神社本殿

重要有形文化財



鵜飼町に所在する清瀧神社の本殿で、桁行三間、梁間二間の入母屋造りの建物。

建築様式から17世紀中頃(1650～80年頃)に建立されたとみられ、市内では南宮神社本殿と建立時期をほぼ同じくする建物である。内陣は18世紀前期、向拝は19世紀に増築されている。

60 長福寺の無縫塔

重要有形文化財



長福寺墓地にある歴代住職の無縫塔(塔身が卵形の墓塔)のうちの1基。結晶質石灰岩(小米石)製で、高さ90cm、基礎正面に、「当山中興開山運用和尚天正八年庚辰(1580)林鐘」とある。

61 国留八幡神社棟札

重要有形文化財



国留八幡神社には24枚の棟札が保存されているが、明応5年(1496)と、天文16年(1547)の本殿再建棟札が指定されている。

62 井永八幡神社大般若波羅蜜多經

(巻第二百八十七)

重要有形文化財



大般若波羅蜜多經600巻のうち、第287巻の写経。全長885cm、紺紙に金泥で書かれ、見返しには釈迦説法図が描かれている。

63 水永大歳神社大般若波羅蜜多經

(巻第三百九)

重要有形文化財



第309巻の写経。もとは井永八幡神社所蔵であったが、嘉永7年(1854)、大歳神社に八幡神を分祀した際、写経も分けたと伝わる。

64 元禄検地水帳 14冊

重要有形文化財



元禄12年(1699)、岡山藩により実施された検地台帳。上下村3冊、矢多田村1冊、水永村1冊、岡屋村1冊、二森村1冊、小堀村3冊、小塚村1冊、有福村3冊がある。

65 大歳神社大数珠

有形民俗文化財



安政4年(1857)、再調の大数珠は288個の珠があり、全長12.12mである。雨乞いに用いられ、水永の全戸が集合して大数珠を繰りながら念仏を唱えていた。

66 上下神楽

無形民俗文化財



備後神楽の伝統を保持し、その基本である儀式舞(神事式という)・能舞・五行祭を完全に演奏できる。

府中市の 指定文化財

67 井永八幡神社祭礼行事

無形民俗文化財



11月3日の例大祭の前夜、3組の神儀組による神殿入りがある。竿頭提灯を連ね、太鼓・銅拍子・笛で道中楽を奏し、宮入り、庭打ちをする。3日は神儀が奉納され、屋台・花鉾が行列に加わり宮入りをする。

68 井永神楽

無形民俗文化財



備後神楽を継承するもので、9月14日の豊饒祭(放生会)と、例大祭年2回に奉納する。

70 大戸直純の墓

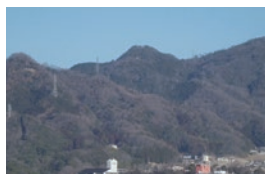
史跡



大戸直純は、浦上盛栄と共に塾を創立し、多数の子供を教育した。また、福山藩内では最初に社倉を創設するとともに、福山義倉にも出資して福祉事業を行なった人物である。

71 幡立山城跡

史跡



幡立山城跡は、亀ヶ岳の西、標高約490mの山頂に築造された中世山城。1郭は約30mの長さで、その南に郭が展開する。1郭西寄りには、幡を立てて通信連絡をしたと伝えられる、幡立岩という巨石がある。

幡立山城の南下方には、杉原氏の居城と伝わる八尾山城が存在する。最高所の主郭から八方に延びる尾根に小郭を配し、北側の尾根は堀切などで遮断している。

73 義農仁兵衛と庄三郎の墓塔

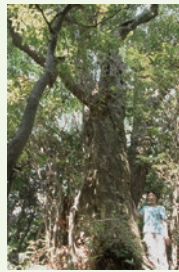
史跡



延宝4年(1676)、矢野小田辺に住んでいた仁兵衛・庄三郎の兄弟が、不作による年貢軽減を福山藩に直訴して打首となった。それを顕彰しこの墓塔を造立したと伝えられる。

76 諸毛良神社のアカガシ

天然記念物



胸高周囲3.82m、樹高16m、地上1.7mで二又に別れ、一方が地上2.7mでさらに五本に分岐し、枝張りも良く樹勢の強い、県内有数の巨樹である。

77 矢野八幡神社のスギ

天然記念物



二株のうち一株が落雷で損傷、補修してきたが、平成17年(2005)に伐採整理された。残った一株の樹勢は旺盛である。

69 五弓雪窓の墓

史跡



五弓雪窓は、学問、特に史学を究め、多くの著述がある。また、福山藩校誠之館の分校として府中郷学を設立し、この郷学が小学校として移管した後は、家塾を開き、多くの子どもの教育に専念した人物である。

72 孝子畠

史跡



小堀村の市松は、父庄三郎へ孝養を尽くしたとして、寛政5年(1793)に幕府から褒賞され、市松には銀5枚、父庄三郎には一日米5合宛を生涯賜った。これを顕彰し、寛政7年(1795)この碑を建立したと伝わる。

75 諸毛八幡神社の大スギ

天然記念物



胸高周囲5.2m、樹高31mで、府中市第一の巨樹である。落雷により樹の上部が枯死し、樹全体が弱っているのが惜しまれる。

78 階見八幡神社のケヤキ

天然記念物



ニレ科の落葉高木。巨大な斜幹と秋の紅葉はことさらに見応えがあり、古くから鎮守の森の神木として崇められてきた。

世紀	時代
B.C.	旧石器
A.D.	縄文
1	弥生
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	江戸
18	
19	明治
20	大正
21	昭和
	平成
	令和

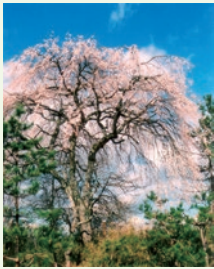
指定文化財一覧

遺跡一覧

府中市の
指定文化財

ふか え
79 深江のシダレザクラ

天 然
記 念 物



深江上高の丘陵にあるバラ科の落葉高木。樹形がよく整っていて、満開時の遠望はことさら見事である。

ぜんしやうじ
82 善昌寺のビャクシン

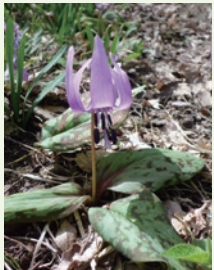
天 然
記 念 物



善昌寺境内にあるヒノキ科の常緑樹。枝ぶりが見事でいかにも古木の風情がある。

かわ い せつかいがん ちしよくせい
85 河井の石灰岩地植生

天 然
記 念 物



河井のカルスト台地一帯に自生する植物群。特有の稀少植物をはじめ、北向き急斜面一帯にはカタクリの大量生地がある。

こう し じんじや
88 合祀神社のシンジュ

天 然
記 念 物



神社本殿の裏手にあるニガキ科の落葉高木。明治10年代に「神樹」と称して植えられたという。県内では稀に見る大木である。

い なが
80 井永のエノキ

天 然
記 念 物



井永の法界山麓にあるニレ科の落葉高木。幅1m以上もある長大な「板根」が露出している。

せいほうえん
83 清芳園のビャクシン

天 然
記 念 物



上下合祀神社隣接の清芳園にあるヒノキ科の常緑樹。

ようげんじ
86 養源寺のタラヨウ

天 然
記 念 物



境内西の山麓にあるモチノキ科の常緑高木。葉裏に文字を書くことができるので、葉書きの木・絵書きしばの別名がある。

や の うね かどうかくれきがん ろとう
89 矢野(宇根)の火道角礫岩の露頭

天 然
記 念 物



新生代新第3紀後期(約800万年前)に、地中から噴出したマグマの通り道(火道)が、固まってできた露頭である。岩石の大部分は玄武岩で、ほかにも基盤岩の砂岩・泥岩・花崗岩を取り込んだものも見られる。全体的にはもろくて崩壊しやすい状態である。

い なが
81 井永のヒガンザクラ

天 然
記 念 物



バラ科の落葉高木。開花が早く美しい。かつては農事の指標木として里人に親しまれたという。

かわ い
84 河井のナラガシワ

天 然
記 念 物



河井飢え坂登り口の県道端にあるブナ科の落葉高木。県道上に25mにも及ぶ見事な枝張りを見せている。

う ね
87 宇根のトチノキ

天 然
記 念 物



宇根の山麓にあるトチノキ科の落葉高木。大木とはいえないが、市内では稀少種である。

府中市の
遺跡一覧

番号	名 称	種 別	時 代
1	諏訪谷古墳	包含地	古墳
2	医光寺谷遺跡	包含地	古代
3	行藤八幡神社遺跡	包含地	弥生・古代
4	向畑窯跡	窯跡	近世
5	小林山城跡	城跡	中世
6	古殿古墓	墳墓	中世
7	松林寺古墓	墳墓	中世
8	小谷遺跡	包含地	弥生
9	西崎遺跡	包含地	古墳・古代
10	和田古墓	墳墓	中世
11	玉禅寺古墓	墳墓	中世
12	山根古墳	古墳	古墳
13	郷空古墓	墳墓	中世
14	重信古墳	古墳	古墳
15	郷上大師堂	祭祀跡	近世
16	中間古墳	古墳	古墳
17	曾根田遺跡	包含地	弥生
18	安全寺古墓	墳墓	中世
19	檜崎城跡	城跡	中世
20	宮本古墓	墳墓	中世
21	久佐八幡神社遺跡	包含地	中世
22	権現第1号古墳	古墳	古墳
23	権現第2号古墳	古墳	古墳
24	下永野古墳	古墳	古墳
25	永野古墓	墳墓	中世
26	諸毛本郷古墓	墳墓	中世
27	諸毛本郷第1号古墳	古墳	古墳
28	諸毛本郷第2号古墳	古墳	古墳
29	諸毛本郷第3号古墳	古墳	古墳
30	堂ヶ原古墳	古墳	古墳
31	堂ヶ原遺跡	墳墓	弥生～古墳
32	後谷遺跡	包含地	弥生
33	長者原遺跡	包含地	古代～中世?
34	二本木遺跡	包含地	中世
35	三室山盤座	祭祀跡	古代
36	甘南備神社北遺跡	包含地	不明
37	甘南備神社遺跡	包含地	弥生～中世
38	甘南備神社南遺跡	包含地	古代
39	神田耕地遺跡	包含地	弥生・中世
40	片山遺跡	包含地	弥生
41	尾立山第1号古墳	古墳	古墳
42	尾立山第2号古墳	古墳	古墳
43	尾立山第3号古墳	古墳	古墳
44	尾立山第4号古墳	古墳	古墳
45	尾立山第5号古墳	古墳	古墳
46	黒金塚古墳	古墳	古墳
47	羽中遺跡	包含地	弥生～中世
48	新宮神社北遺跡	包含地	中世?
49	羽中南遺跡	包含地	弥生・古代
50	辻高居西遺跡	官衙?	古代
51	辻高居東遺跡	集落?	弥生・古代
52	洞仙焼窯跡	窯跡	近世
53	出口新町遺跡	官衙など	古代
54	辻横田遺跡	官衙など	古墳～中世
55	鳥羽遺跡	包含地	弥生～中世
56	仲谷遺跡	包含地	中世
57	チョコシ遺跡	包含地	弥生・古代
58	加一遺跡	包含地	中世
59	青目寺跡	寺院跡	平安～室町
60	常城跡推定地	城跡	古代
61	旗立山城跡	城跡	中世
62	亀ヶ岳遺跡	包含地	古代
63	青目寺観音堂遺跡	寺院跡	中世～近世
64	うしの塔古墓	墳墓	平安～鎌倉
65	八尾山城跡	城跡	中世
66	竹田峠古墳	古墳	古墳
67	峠の坊遺跡	包含地	不明
68	諏訪神社遺跡	包含地	古代
69	竹田古墳	古墳	古墳
70	西谷遺跡	包含地	古代～中世
71	石垣古墳	古墳	古墳
72	石垣遺跡	集落	弥生・古代
73	日吉神社遺跡	祭祀跡・他	平安～中世
74	日吉中谷古墳	古墳	古墳
75	助宗古墳	古墳	古墳
76	本山古墳	古墳	古墳
77	伊勢地岡遺跡	包含地	古代
78	伊勢地遺跡	不明	古墳・古代
79	宝泉坊古墳	古墳	古墳
80	宝泉坊遺跡	包含地	古墳～中世
81	ヒランマル第1号古墳	古墳	古墳
82	ヒランマル第2号古墳	古墳	古墳
83	松山古墳	古墳	古墳
84	門田A遺跡	墳墓	弥生・古代
85	門田第1号古墳	古墳	古墳
86	門田第2号古墳	古墳	古墳
87	中山遺跡	墳墓	弥生?
88	下辻遺跡	包含地	弥生・古代
89	下才田遺跡	包含地	弥生～中世

90	横井遺跡	包含地	弥生
91	前原遺跡	官衙跡・包含地	縄文～中世
92	上原前遺跡	包含地	古代
93	前原古墳	古墳	古墳
94	藪堂遺跡	包含地	縄文・弥生
95	川崎遺跡	包含地	弥生
96	法全坊遺跡	包含地	縄文～古墳
97	下川辺遺跡	包含地	縄文
98	河面谷古墓	墳墓	中世
99	番蔵古墓	墳墓	中世
100	番蔵第1号古墳	古墳	古墳
101	番蔵第2号古墳	古墳	古墳
102	盾石遺跡	祭祀跡	弥生
103	段ヶ市古墓	墳墓	中世
104	段ヶ市遺跡	散布地	弥生
105	段ヶ市丸山古墓	墳墓	中世
106	矢谷第1号古墳	古墳	古墳
107	矢谷第2号古墳	古墳	古墳
108	矢谷第3号古墳	古墳	古墳
109	矢谷第4号古墳	古墳	古墳
110	坂本第1号古墳	古墳	古墳
111	坂本第2号古墳	古墳	古墳
112	三郎丸観音谷第1号古墳	古墳	古墳
113	三郎丸観音谷第2号古墳	古墳	古墳
114	三郎丸観音谷第3号古墳	古墳	古墳
115	三郎丸観音谷第4号古墳	古墳	古墳
116	三郎丸観音谷第5号古墳	古墳	古墳
117	三郎丸観音谷第6号古墳	古墳	古墳
118	土井の下古墓	墳墓	中世
119	山の神古墳	古墳	古墳
120	三郎丸古墓	墳墓	中世
121	伝吉田寺跡	寺院跡	古代
122	金龍寺東遺跡	寺院跡・官衙	古代～中世
123	門田地南遺跡	包含地	縄文～古代
124	ドウジョウ遺跡	包含地	古代～中世
125	砂山遺跡	官衙など	古墳～中世
126	門ノ前遺跡	包含地	古代～中世
127	六地藏遺跡	集落	中世
128	坊迫A遺跡	墳墓など	弥生～近世
129	坊迫A第1号古墳	古墳	古墳
130	坊迫A第2号古墳	古墳	古墳
131	坊迫A第3号古墳	古墳	古墳
132	坊迫B遺跡	包含層	中世
133	坊迫C遺跡	寺院跡?	古代～中世
134	坊迫宝塔	その他	中世
135	池ノ迫遺跡	墳墓・城跡	弥生・中世
136	池ノ迫第1号古墳	古墳	古墳
137	山の神遺跡群	墳墓など	弥生・中世
138	山の神第1号古墳	古墳	古墳
139	山の神第2号古墳	古墳	古墳
140	山の神第3号古墳	古墳	古墳
141	山の神第4号古墳	古墳	古墳
142	池ノ迫奥遺跡	城跡	中世
143	ホリノ河内遺跡	集落	弥生～中世
144	ツジ遺跡	官衙跡・集落跡	弥生～古代
145	潮音寺山遺跡	包含地	弥生
146	上田山遺跡	包含地	弥生
147	鳥居遺跡	道路跡・包含地	古墳～古代
148	田中遺跡	集落	古代～中世
149	二宮神社遺跡	包含地	古代～中世
150	溝手遺跡	集落	中世
151	野屋の木古墳	古墳	古墳
152	野屋遺跡	包含地	弥生～古代
153	五反畑遺跡	包含地	弥生～古代
154	後開地遺跡	包含地	古代
155	柴垣遺跡	包含地	弥生～古代
156	小寺遺跡	包含地	古代～中世
157	辰山遺跡	包含地	弥生～中世
158	土井遺跡	包含地	弥生～古墳
159	巳の口山遺跡	包含地	弥生
160	巳の口山古墳	古墳	古墳
161	梶屋遺跡	包含地	弥生～古代
162	堂脇古墳	古墳	古墳
163	淵上城跡	城跡	中世
164	樋口古墳	古墳	古墳
165	河南八幡神社遺跡	包含地	弥生・中世
166	福輪塚第1号古墳	古墳	古墳
167	福輪塚第2号古墳	古墳	古墳
168	寺の下西遺跡	集落など	縄文～中世
169	広畑遺跡	墳墓など	古代～中世
170	清水遺跡	包含地	古代
171	服部田遺跡	集落	弥生～中世
172	東横木山B遺跡	城跡	中世
173	東横木山第1号古墳	古墳	古墳
174	東横木山第2号古墳	古墳	古墳
175	東横木山第3号古墳	古墳	古墳
176	東横木山第4号古墳	古墳	古墳
177	下塚原遺跡	包含地	弥生～古代
178	川原遺跡	包含地	弥生～古代
179	小林遺跡	包含地	弥生～古代

世紀	時代
B.C.	旧石器
	縄文
	弥生
	古墳
A.D.	飛鳥
	奈良
10	平安
	鎌倉
	南北朝
	室町
16	戦国
	安土桃山
18	江戸
	明治
20	大正
	昭和
21	平成
	令和

遺跡一覧

府中市の遺跡一覧

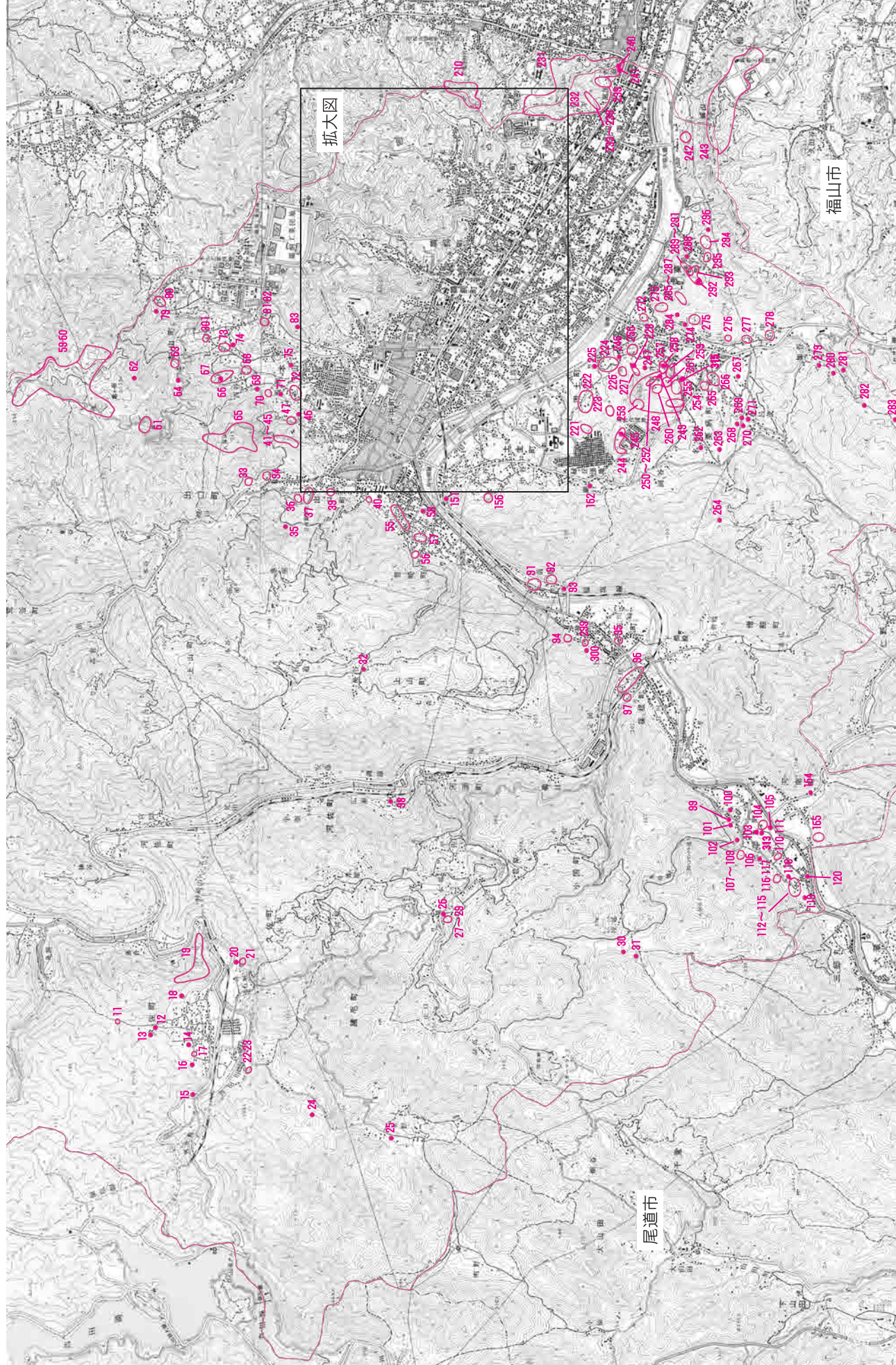
番号	名 称	種 別	時 代
180	寺ノ前遺跡	官衙など	弥生・古代
181	龍王山 D 第 1 号古墳	古墳	古墳
182	龍王山 D 第 2 号古墳	古墳	古墳
183	龍王山 D 第 3 号古墳	古墳	古墳
184	龍王山 A 第 1 号古墳	古墳	古墳
185	龍王山 A 第 2 号古墳	古墳	古墳
186	龍王山 A 第 3 号古墳	古墳	古墳
187	龍王山 A 第 4 号古墳	古墳	古墳
188	龍王山 B 第 1 号古墳	古墳	古墳
189	龍王山 B 第 2 号古墳	古墳	古墳
190	龍王山 C 第 1 号古墳	古墳	古墳
191	内堀西 A 遺跡	墳墓	弥生～古墳
192	内堀西 B 遺跡	墳墓	弥生・古墳
193	内堀東遺跡	墳墓	弥生～古墳
194	打堀山 B 遺跡	墳墓	平安
195	打堀山 B 第 1 号古墳	古墳	古墳
196	打堀山 B 第 2 号古墳	古墳	古墳
197	打堀山 B 第 3 号古墳	古墳	古墳
198	清財遺跡	包含地	古代
199	打堀山 C 遺跡	集落	弥生・古代
200	打堀山 A 遺跡	墳墓	弥生
201	打堀山 A 第 1 号古墳	古墳	古墳
202	町田遺跡	包含地	古代
203	角尾山遺跡	包含地	平安
204	角尾遺跡	包含地	弥生・古代
205	森谷遺跡	包含地	弥生～古代
206	大迫谷西遺跡	包含地	古代？
207	大迫谷遺跡	包含地	古代～中世
208	大坪遺跡	包含地	奈良
209	西ノ前遺跡	包含地	古代～中世
210	鳶尾城跡	城跡	中世
211	木曾丸遺跡	墳墓	中世
212	伊豆迫山遺跡	墳墓など	弥生～古代
213	平佐山遺跡	集落など	弥生・中世・近世
214	平佐遺跡	包含地	弥生・古代
215	雄立古墳	古墳	古墳
216	城山第 1 号古墳	古墳	古墳
217	城山第 2 号古墳	古墳	古墳
218	城山第 3 号古墳	古墳	古墳
219	実蔵坊遺跡	包含地	弥生～中世
220	森脇遺跡	集落	弥生
221	黄番後山遺跡	墳墓	弥生～古墳
222	山手遺跡群	包含地	弥生～古墳
223	横見遺跡	包含地	弥生～古墳
224	御門遺跡	包含地	弥生～中世
225	御門ジョー古墳	古墳	古墳
226	大久保遺跡	集落	弥生～古墳
227	南宮後山遺跡	墳墓	弥生・古代
228	南宮後山第 1 号古墳	古墳	古墳
229	岡谷遺跡	包含地	古代～中世
230	本木遺跡	包含地	古代～中世
231	亀寿山城跡	城跡	中世
232	ウロウギ遺跡	包含地	奈良
233	字呂木第 1 号古墳	古墳	古墳
234	字呂木第 2 号古墳	古墳	古墳
235	字呂木第 3 号古墳	古墳	古墳
236	字呂木第 4 号古墳	古墳	古墳
237	字呂木第 5 号古墳	古墳	古墳
238	字呂木第 6 号古墳	古墳	古墳
239	赤迫遺跡	包含地	古代～中世
240	御旅古墳	古墳	古墳
241	御旅遺跡	墳墓	弥生～古墳
242	向山遺跡	包含地	弥生・古代
243	相方城跡	城跡	中世
244	千原遺跡	墳墓	弥生～古墳
245	千原古墳	古墳	古墳
246	勅使峠遺跡	包含地	古代
247	平井古墳	古墳	古墳
248	茶臼山城跡	城跡	中世
249	茶臼山古墓	墳墓	中世
250	茶臼山第 1 号古墳	古墳	古墳
251	茶臼山第 2 号古墳	古墳	古墳
252	茶臼山第 3 号古墳	古墳	古墳
253	茶臼山山頂遺跡	包含地	弥生～古墳
254	長迫西遺跡	包含地	弥生～古墳
255	長迫東遺跡	包含地	不詳
256	平井北遺跡	包含地	弥生
257	平井南遺跡	包含地	弥生
258	王子塚古墳	古墳	古墳
259	御池遺跡	包含地	弥生～中世
260	南宮神社遺跡	包含地	古代～中世
261	神宮寺西遺跡	包含地	中世？
262	七御陵古墳	古墳	古墳
263	名字向古墳	古墳	古墳
264	戸木窯跡	窯跡	古代
265	ト口毛遺跡	包含地	古墳
266	栗柄廃寺	寺院跡など	弥生～古代
267	ノーラ古墳	古墳	古墳
268	寺山第 1 号古墳	古墳	古墳

269	寺山第 2 号古墳	古墳	古墳
270	寺山遺跡	墳墓	中世～近世
271	西龍寺東遺跡	墳墓	中世
272	四日市西遺跡	包含地	古代～中世
273	四日市遺跡	包含地	縄文～弥生
274	安江古墳	古墳	古墳
275	安江遺跡	包含地	古代～中世
276	中柴北遺跡	包含地	古墳～中世
277	中柴遺跡	包含地	古代～中世
278	中柴南遺跡	包含地	古代
279	大迫古墳	古墳	古墳
280	加谷奥山古墳	古墳	古墳
281	アテガワテ古墳	古墳	古墳
282	原ノ池古墳	古墳	古墳
283	馬背古墳	古墳	古墳
284	厚葉古墳	古墳	古墳
285	先厚葉第 1 号古墳	古墳	古墳
286	先厚葉第 2 号古墳	古墳	古墳
287	先厚葉第 3 号古墳	古墳	古墳
288	鷗谷西第 1 号古墳	古墳	古墳
289	鷗谷西第 2 号古墳	古墳	古墳
290	鷗谷西第 3 号古墳	古墳	古墳
291	鷗谷西第 4 号古墳	古墳	古墳
292	鷗谷西第 5 号古墳	古墳	古墳
293	鷗谷西遺跡	包含地	中世？
294	鷗谷遺跡	包含地	弥生
295	鷗谷南遺跡	包含地	弥生
296	鷗谷古墳	古墳	古墳
297	府中市街地遺跡群	官衙・集落跡	縄文～中世
298	青木古墳※	古墳	古墳
299	王免寺遺跡	包含地	中世
300	王免寺古墳	古墳	古墳
301	坂本坊遺跡	包含地	中世
302	元町東遺跡	官衙など	弥生～古代
303	カラス田遺跡	包含地	弥生～古代
304	砂原遺跡	集落	縄文～中世
305	岡屋遺跡	タタラ跡	不明
306	大マヘ遺跡	官衙跡・集落跡	古代
307	芦高遺跡	集落・祭祀	弥生～中世
308	池下遺跡	包含地	縄文
309	古代山陽道跡（横井地区）	道路跡	古代
310	古代山陽道跡（八反田地区）	道路跡	古代
311	杭が坪遺跡	集落	古墳・古代
312	二才原遺跡	包含地・集落	弥生～平安
313	天満ヶ迫遺跡	包含地・集落	古墳
314	府川土井遺跡	包含地・集落	古代～中世
315	平井城平遺跡	包含地・集落	古代～中世
316	堀川遺跡	包含地・集落	弥生～中世
※は所在不明			
J1	小塚古墳	古墳	古墳
J2	小塚城跡	城跡	中世
J3	風呂屋第 1 号古墳	古墳	古墳
J4	風呂屋第 2 号古墳	古墳	古墳
J5	久保山城跡	城跡	中世
J6	小塚八幡神社前古墓	墓	不明
J7	小塚中山第 1 号古墳	古墳	古墳
J8	小塚中山第 2 号古墳	古墳	古墳
J9	小塚中山第 3 号古墳	古墳	古墳
J10	小塚中山第 4 号古墳	古墳	古墳
J11	小塚中山第 5 号古墳	古墳	古墳
J12	小塚中山第 6 号古墳	古墳	古墳
J13	小塚中山第 7 号古墳	古墳	古墳
J14	小塚中山第 8 号古墳	古墳	古墳
J15	小塚中山第 9 号古墳	古墳	古墳
J16	竜の口古墳	古墳	古墳
J17	吉森第 1 号古墳	古墳	古墳
J18	吉森第 2 号古墳	古墳	古墳
J19	迫の峠第 1 号古墳	古墳	古墳
J20	迫の峠第 2 号古墳	古墳	古墳
J21	迫の峠第 3 号古墳	古墳	古墳
J22	通力第 1 号古墳	古墳	古墳
J23	通力第 2 号古墳	古墳	古墳
J24	通力第 3 号古墳	古墳	古墳
J25	通力第 4 号古墳	古墳	古墳
J26	通力第 5 号古墳	古墳	古墳
J27	三見城跡	城跡	中世
J28	宗兵衛山古墳	古墳	古墳
J29	平田城跡	城跡	中世
J30	平田第 1 号古墳	古墳	古墳
J31	平田第 2 号古墳	古墳	古墳
J32	石塔平塚古墳	古墳	古墳
J33	城跡	城跡	中世
J34	有福城跡	城跡	中世
J35	嵯峨山古墳	古墳	古墳
J36	大畔塚第 1 号古墳	古墳	古墳
J37	大畔塚第 2 号古墳	古墳	古墳
J38	上下小学校裏古墳	古墳	古墳
J39	翁山城跡	城跡	中世
J40	丹下城跡	城跡	中世
J41	天領上下代官所跡	代官所跡	近世

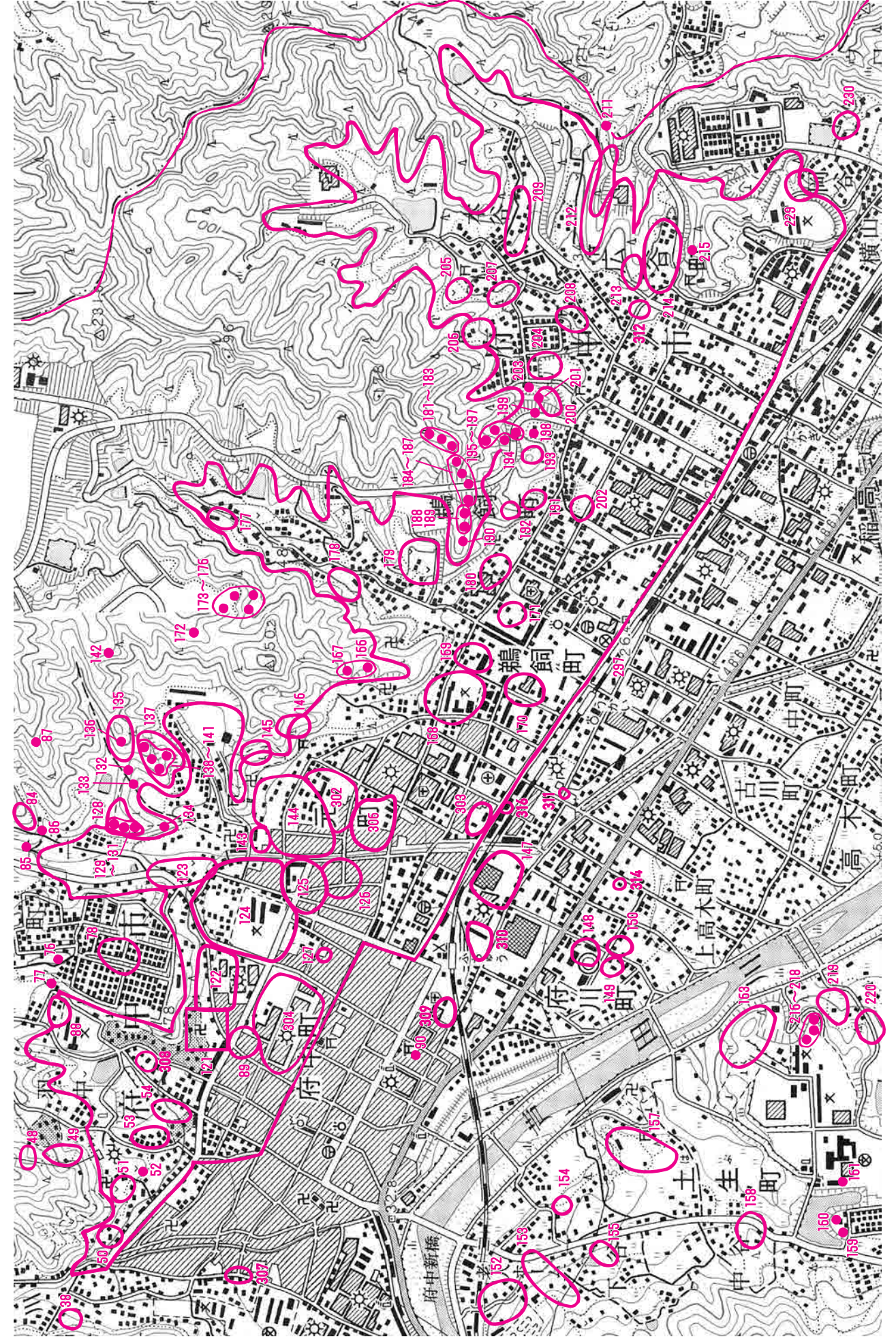
府中市の遺跡一覧

番号	名 称	種 別	時 代
J42	道城遺跡	集落跡	弥生～古墳
J43	上下高校古墳	古墳	古墳
J44	森荒神第 1 号古墳	古墳	古墳
J45	森荒神第 2 号古墳	古墳	古墳
J46	三須磨第 1 号古墳	古墳	古墳
J47	三須磨第 2 号古墳	古墳	古墳
J48	三須磨第 3 号古墳	古墳	古墳
J49	三須磨第 4 号古墳	古墳	古墳
J50	三須磨第 5 号古墳	古墳	古墳
J51	三須磨第 6 号古墳	古墳	古墳
J52	三須磨第 7 号古墳	古墳	古墳
J53	三須磨第 8 号古墳	古墳	古墳
J54	下谷西奥古墳	古墳	古墳
J55	下谷岸古墳	古墳	古墳
J56	平迫第 1 号古墳	古墳	古墳
J57	平迫第 2 号古墳	古墳	古墳
J58	平迫第 3 号古墳	古墳	古墳
J59	平迫第 4 号古墳	古墳	古墳
J60	中山第 1 号古墳	古墳	古墳
J61	中山第 2 号古墳	古墳	古墳
J62	中山第 3 号古墳	古墳	古墳
J63	中山第 4 号古墳	古墳	古墳
J64	中山第 5 号古墳	古墳	古墳
J65	中山第 6 号古墳	古墳	古墳
J66	中山第 7 号古墳	古墳	古墳
J67	中山第 8 号古墳	古墳	古墳
J68	中山第 9 号古墳	古墳	古墳
J69	上高第 1 号古墳	古墳	古墳
J70	上高第 2 号古墳	古墳	古墳
J71	大仙平第 1 号古墳	古墳	古墳
J72	大仙平第 2 号古墳	古墳	古墳
J73	大仙平第 3 号古墳	古墳	古墳
J74	時鳥城跡	城跡	中世
J75	時鳥古墳	古墳	古墳
J76	扇峠古墳	古墳	古墳
J77	千丸松城跡	城跡	中世
J78	国留城跡	城跡	中世
J79	上高城跡	城跡	中世
J80	薄古山城跡	城跡	中世
J81	薄古第 1 号古墳	古墳	古墳
J82	薄古第 2 号古墳	古墳	古墳
J83	薄古第 3 号古墳	古墳	古墳
J84	薄古第 4 号古墳	古墳	古墳
J85	薄古第 5 号古墳	古墳	古墳
J86	浄円寺山第 1 号古墳	古墳	古墳
J87	浄円寺山第 2 号古墳	古墳	古墳
J88	浄円寺山第 3 号古墳	古墳	古墳
J89	浄円寺山第 4 号古墳	古墳	古墳
J90	浄円寺山第 5 号古墳	古墳	古墳
J91	浄円寺山第 6 号古墳	古墳	古墳
J92	浄円寺山第 7 号古墳※	古墳	古墳
J93	浄円寺山第 8 号古墳※	古墳	古墳
J94	浄円寺山第 9 号古墳※	古墳	古墳
J95	浄円寺山第 10 号古墳※	古墳	古墳
J96	浄円寺山第 11 号古墳※	古墳	古墳
J97	浄円寺山第 12 号古墳※	古墳	古墳
J98	浄円寺山第 13 号古墳※	古墳	古墳
J99	薄古山第 1 号古墳	古墳	古墳
J100	薄古山第 2 号古墳	古墳	古墳
J101	薄古山第 3 号古墳	古墳	古墳
J102	薄古山第 4 号古墳	古墳	古墳
J103	薄古山第 5 号古墳	古墳	古墳
J104	薄古山第 6 号古墳	古墳	古墳
J105	薄古山第 7 号古墳	古墳	古墳
J106	薄古山第 8 号古墳	古墳	古墳
J107	薄古山第 9 号古墳	古墳	古墳
J108	薄古山第 10 号古墳	古墳	古墳
J109	薄古山第 11 号古墳	古墳	古墳
J110	薄古山第 12 号古墳	古墳	古墳
J111	薄古山第 13 号古墳	古墳	古墳
J112	薄古山第 14 号古墳	古墳	古墳
J113	薄古山第 15 号古墳	古墳	古墳
J114	大倉原遺跡	集落跡	古墳
J115	岩風呂第 1 号古墳	古墳	古墳
J116	岩風呂第 2 号古墳	古墳	古墳
J117	岩風呂第 3 号古墳	古墳	古墳
J118	岩風呂第 4 号古墳	古墳	古墳
J119	岩風呂第 5 号古墳	古墳	古墳
J120	岩風呂第 6 号古墳	古墳	古墳
J121	岩風呂第 7 号古墳	古墳	古墳
J122	岩風呂第 8 号古墳	古墳	古墳
J123	無念寺第 1 号古墳	古墳	古墳
J124	無念寺第 2 号古墳	古墳	古墳
J125	無念寺第 3 号古墳	古墳	古墳
J126	無念寺第 4 号古墳	古墳	古墳
J127	無念寺第 5 号古墳	古墳	古墳
J128	無念寺第 6 号古墳	古墳	古墳
J129	塚足遺跡	集落跡	縄文～中世
J130	小田迫遺跡	集落跡	古墳

J131	日掛城跡	城跡	中世
J132	安福寺宝篋印塔	墓	中世
J133	下郷桑原遺跡	集落跡	弥生～古代
J134	大和遺跡 A 地点	集落跡	縄文～古代
J135	湯川古墳	古墳	古墳
J136	洞山第 1 号古墳	古墳	古墳
J137	洞山第 2 号古墳	古墳	古墳
J138	洞山第 3 号古墳	古墳	古墳
J139	洞山第 4 号古墳	古墳	古墳
J140	洞山第 5 号古墳	古墳	古墳
J141	洞山第 6 号古墳	古墳	古墳
J142	高鉢山城跡	城跡	中世
J143	仁和田古墳	古墳	古墳
J144	好迫第 1 号古墳	古墳	古墳
J145	好迫第 2 号古墳	古墳	古墳
J146	好迫第 3 号古墳	古墳	古墳
J147	好迫第 4 号古墳	古墳	古墳
J148	寺奥第 1 号古墳	古墳	古墳
J149	寺奥第 2 号古墳	古墳	古墳
J150	防地奥古墳	古墳	古墳
J151	防地第 1 号古墳	古墳	古墳
J152	防地第 2 号古墳	古墳	古墳
J153	堀奥古墳	古墳	古墳
J154	箱山古墳	古墳	古墳
J155	越谷古墳	古墳	古墳
J156	矢多田城跡	城跡	中世
J157	新山城跡	城跡	中世
J158	古城峠第 1 号古墳※	古墳	古墳
J159	古城峠第 2 号古墳※	古墳	古墳
J160	扇原第 1 号古墳	古墳	古墳
J161	扇原第 2 号古墳	古墳	古墳
J162	扇原遺跡	包含地	縄文
J163	井永城跡	城跡	中世
J164	山の神第 1 号古墳	古墳	古墳
J165	山の神第 2 号古墳	古墳	古墳
J166	山の神第 3 号古墳	古墳	古墳
J167	豆丸尻古墳	古墳	古墳
J168	末原古墳	古墳	古墳
J169	南山西古墳	古墳	古墳
J170	南山第 1 号古墳	古墳	古墳
J171	南山第 2 号古墳	古墳	古墳
J172	南山第 3 号古墳	古墳	古墳
J173	平山第 1 号古墳	古墳	古墳
J174	平山第 2 号古墳	古墳	古墳
J175	二反田第 1 号古墳	古墳	古墳
J176	二反田第 2 号古墳	古墳	古墳
J177	二反田第 3 号古墳	古墳	古墳
J178	二反田第 4 号古墳	古墳	古墳
J179	二反田第 5 号古墳	古墳	古墳
J180	平松古墳	古墳	古墳
J181	肉原古墳	古墳	古墳
J182	屏風山古墳	古墳	古墳
J183	殿居古墳	古墳	古墳
J184	萩山第 1 号古墳	古墳	古墳
J185	萩山第 2 号古墳	古墳	古墳
J186	萩山第 3 号古墳	古墳	古墳
J187	奥の院第 1 号古墳	古墳	古墳
J188	奥の院第 2 号古墳	古墳	古墳
J189	奥の院第 3 号古墳	古墳	古墳
J190	奥の院第 4 号古墳	古墳	古墳
J191	そね第 1 号古墳	古墳	古墳
J192	そね第 2 号古墳	古墳	古墳
J193	行年遺跡	集落跡	縄文～古墳
J194	中居遺跡	包含地	弥生
J195	釈迦丸第 1 号古墳	古墳	古墳
J196	釈迦丸第 2 号古墳	古墳	古墳
J197	釈迦丸第 3 号古墳	古墳	古墳
J198	釈迦丸第 4 号古墳	古墳	古墳
J199	釈迦丸第 5 号古墳	古墳	古墳
J200	階見城跡	城跡	中世
J201	塔のそね古墳	古墳	古墳
J202	清滝城跡	城跡	中世
J203	中居古墳	古墳	古墳
J204	塚野田第 1 号古墳	古墳	古墳
J205	塚野田第 2 号古墳	古墳	古墳
J206	塚野田第 3 号古墳	古墳	古墳
J207	塚野田第 4 号古墳	古墳	古墳
J208	塚野田第 5 号古墳	古墳	古墳
J209	篠原第 1 号古墳	古墳	古墳
J210	篠原第 2 号古墳	古墳	古墳
J211	篠原第 3 号古墳	古墳	古墳
J212	篠原第 4 号古墳	古墳	古墳
J213	篠原東第 1 号古墳	古墳	古墳
J214	篠原東第 2 号古墳	古墳	古墳
J215	篠原東第 3 号古墳	古墳	古墳
J216	篠原東第 4 号古墳	古墳	古墳
J217	篠原東第 5 号古墳	古墳	古墳
J218	篠原東第 6 号古墳	古墳	古墳
J219	篠原東第 7 号古墳	古墳	古墳
J220	大倉原古墳	古墳	古墳



府中市遺跡地図 (1:50,000)

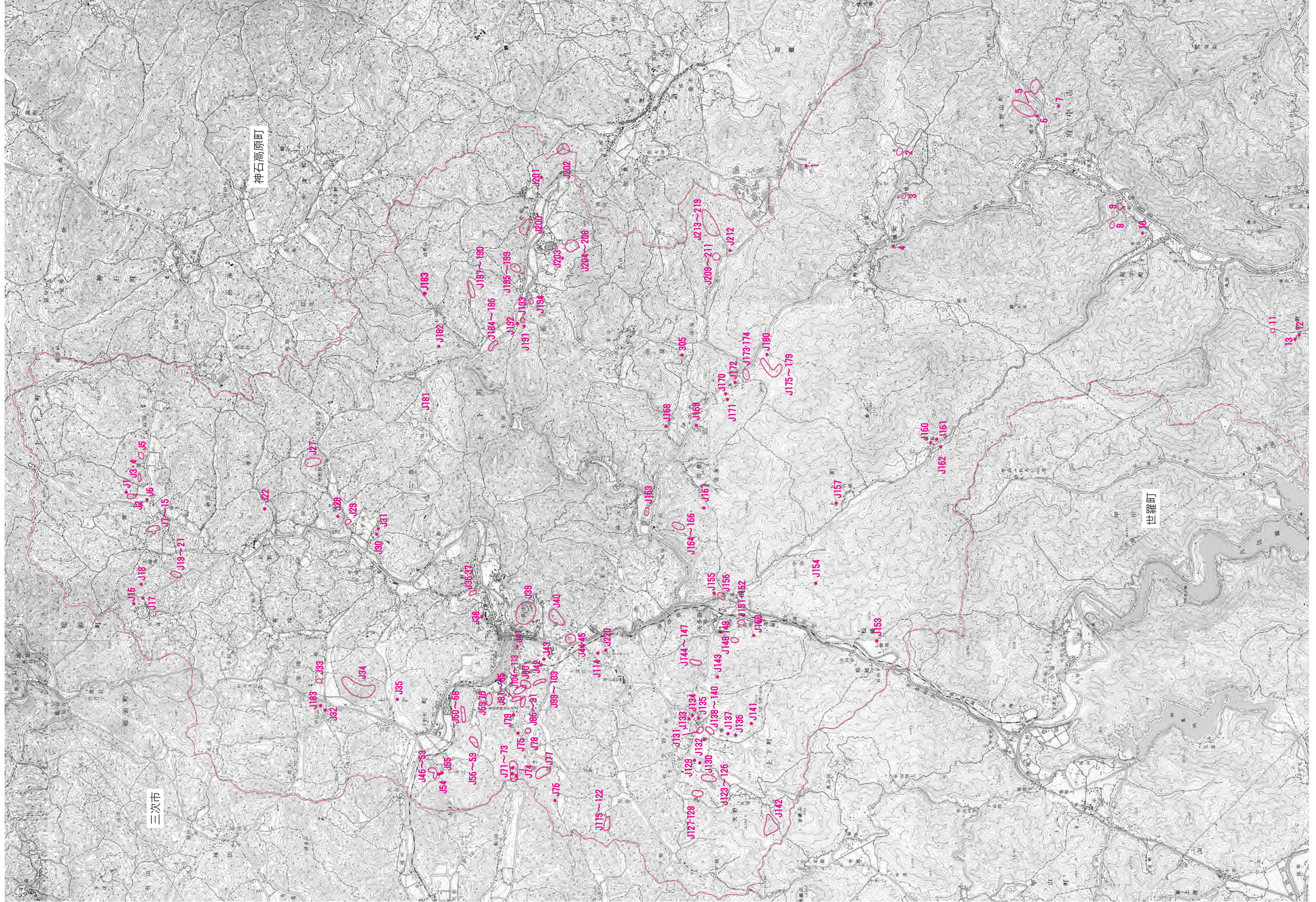


府中市街地遺跡地図 (1:15,000)

世紀	時代
B.C.	旧石器
A.D.	縄文
1	弥生
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	鎌倉
13	南北朝
14	室町
15	戦国
16	安土桃山
17	
18	江戸
19	
20	明治
21	大正
	昭和
	平成
	令和

指定文化財一覧

遺跡一覧



府中市遺跡地図 (1:50,000)

世紀	時代
B.C.	旧石器
A.D.	縄文
1	弥生
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	江戸
18	
19	明治
20	大正
21	昭和
	平成
	令和

指定文化財一覧

遺跡一覧

府中市の文化財マップ



府中市の資料館案内

府中市の歴史については、次の施設で詳しく知ることができます。

府中市歴史民俗資料館



明治36年竣工の旧芦品郡役所庁舎を利用した資料館で、府中市の歴史を解説しています。

1階は府中市名の由来にもなっている「備後国府」の関連資料を多く常設展示し、国府の時代の復元衣装が彩りを添えています。

国府衣装の体験が人気です。

所在地	〒726-0021 府中市土生町882-2
開館時間	午前10時～午後5時
休館日	祝日を除く月曜日と年末年始
入館料	無料
問い合わせ先	電話：0847-43-4646

府中市上下歴史文化資料館



上下出身の作家岡田美知代の生家を改築した建物で、軒先などに昔の面影が残っています。

展示内容は、1階に上下の歴史と、岡田美知代の生涯にスポットをあてた展示のほか、上下の民話を紹介したコーナーを設けています。

上下の町並みの観光拠点のひとつであり、上下の魅力も発信しています。

所在地	〒729-3431 府中市上下町上下1006
開館時間	午前10時～午後6時
休館日	祝日を除く月曜日と年末年始 ※上下ひなまつり中は無休
入館料	無料
問い合わせ先	電話：0847-62-3999